

■団体アンケート調査の結果

①ボランティア・市民活動団体に対するアンケート調査

※令和8(2026)年2月～3月に実施。35団体から回答。

問1 あなたの所属する団体の活動内容についておうかがいします。

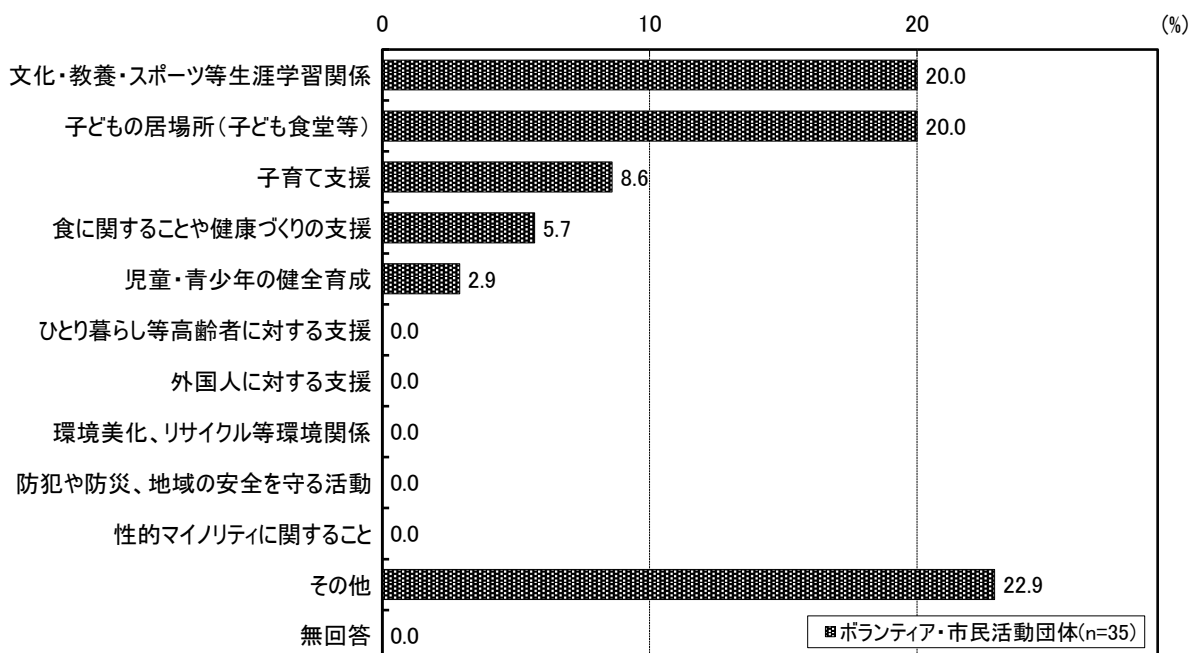
①会員数 平均：25.8人（女性：17.8人、男性：8.0人）

②会員の年代構成はどのようになっていますか。

平均10・20歳代：1.5人、30歳代：0.8人、40歳代：1.3人、50歳代：3.1人

60歳代：5.2人、70歳代：9.7人、80歳代：3.9人、90歳以上：0.3人

③主な活動内容をお聞かせください。（あてはまるもの1つに○）



○「文化・教養・スポーツ等生涯学習関係」と「子どもの居場所（子ども食堂等）」が20.0%、「子育て支援」が8.6%、「食に関することや健康づくりの支援」が5.7%などとなっています。

※その他の記述内容

- ・高齢者対象（寝たきりにならない、させない、作らない）を目標に音楽をかけて体操します。
- ・高齢者施設や老人会、その他イベントで大正琴を演奏し、皆さんに歌っていただいています。
- ・施設訪問等で音楽活動
- ・老人ホーム、老人会への訪問
- ・女性のためのつながり事業（相談や居場所）
- ・地域猫活動 ・猫問題 ・ブナ林の保全・育成

④年間にどのような活動を行っておられるか、具体的にお聞かせください。印刷物等があれば添付していただいても構いません。令和8年度の活動予定もお聞かせください。

1 地域における交流・居場所づくり活動

- ・多くの団体で、地域住民が孤立せず安心して暮らせるよう、交流の場や居場所づくりに取り組まれています。特に、子ども、高齢者、障害のある人、子育て中の保護者など、多様な立場の人が地域の中でつながることを重視した活動が数多く見られました。
- ・子ども食堂については、毎週の朝食提供や毎月の昼食提供、テイクアウト形式による配布型の実施など、地域の実情に応じた運営が行われています。単なる食事支援にとどまらず、食育や世代間交流、地域とのつながりづくりを目的として実施されている点が特徴です。また、引きこもり傾向の子どもを対象とした食堂活動や、子どもから高齢者まで参加できる交流イベントを開催するなど、地域共生の視点を重視した取り組みもみられます。
- ・常設型の居場所づくりとして、親子ひろばやボランティアサロン、地域サロンなどを継続的に開設している団体もあり、日常的な交流や相談、見守りの機能を果たしています。喫茶や昼食会、歌の会、体操、レクリエーションなどを通じて、高齢者の閉じこもり防止や地域での支え合いにつながる活動が展開されています。
- ・一方で、活動場所や運営体制に関する課題もみられました。調理場所と配布場所が離れていることによる制約や、参加者数の確保、寄付に依存した運営など、継続的な活動を行ううえでの負担がうかがえます。そのため、新たな活動拠点の確保や地域への周知強化の必要性も示されています。

2 高齢者支援・介護予防・生きがいづくり活動

- ・高齢者が地域で安心して暮らし続けられるよう、生きがいづくりや健康づくり、交流促進を目的とした活動も幅広く実施されています。
- ・老人会や高齢者施設への訪問活動として、大正琴やオカリナ演奏、民謡踊り、朗読活動などが行われており、施設利用者に楽しみや交流の機会を提供しています。また、依頼に応じて地域行事や施設へ出向くなど、地域とのつながりを大切にした活動が継続されています。
- ・介護予防や健康づくりに関する活動としては、体操やリハビリ運動、口腔体操、軽スポーツ、カラオケなどを取り入れた取り組みが行われています。特に、難病当事者団体では、闘病経験や生活上の工夫を共有しながら、身体機能維持や仲間づくりを図る活動が展開されており、当事者同士の支え合いの場としても重要な役割を果たしています。
- ・高齢者大学では、定期的な授業や公開講座、クラブ活動、歴史探訪、地域ボランティア活動などを通じて、高齢者の学びや社会参加、生きがいづくりを推進しています。地域貢献活動を通じて、世代を超えた交流や地域との連帯を深めている点も特徴です。
- ・退院介助などの有償ボランティア活動や、お困りごと支援など、日常生活を支える取り組みも実施されており、高齢者の在宅生活を地域で支える仕組みづくりにつながっています。

3 障害者支援・情報保障・社会参加促進活動

- ・障害のある人が地域で安心して暮らし、社会参加できる環境づくりに向けた活動も多く実施されています。
- ・障害の有無を問わず参加できるダンス、音楽、アート活動や交流会、講演会などを通じて、障害理解や共生社会の推進を図る活動が行われています。また、手話学習や聴覚障害者との交流活動では、コミュニケーション支援や手話の普及啓発に取り組み、地域における理解促進を進めています。
- ・視覚障害者支援としては、音訳図書や点訳図書の製作、市の広報や議会だより等の音訳・点訳、対面朗読、訪問朗読などが継続的に行われています。行政情報を利用しやすくする情報保障の役割を果たしており、地域福祉を支える重要な活動となっています。また、国会図書館への点字データ登録など、地域を超えた情報提供にも貢献しています。
- ・パソコン利用の勉強会や障害当事者同士の交流活動なども実施されており、デジタル活用支援や社会参加促進につながっています。

4 子育て支援・困難を抱える家庭への支援

- ・子育て家庭や生活困窮世帯、ひとり親家庭などへの支援活動も充実しています。
- ・親子ひろばや家庭訪問型子育て支援、親子防災活動などを通じて、子育て家庭の孤立防止や地域でのつながりづくりが進められています。また、女性相談や電話相談、訪問相談、ピアサポート活動など、多様な相談支援体制を整えている団体もみられます。
- ・ひとり親家庭や困窮家庭に対しては、フードパントリーによる食材提供や食事支援が実施されており、生活支援と見守りを兼ねた地域福祉活動として機能しています。
- ・里親支援活動では、相談や広報活動、寄付支援、機関紙の発行などを通じて、子どもの権利擁護や里親制度への理解促進に取り組んでいます。行政、教育機関、関係団体との連携を図りながら、地域全体で子どもを支える環境づくりを進めている点が特徴です。
- ・子育てに関する勉強会やミーティング、体験活動なども実施されており、保護者同士の交流や学びの機会づくりにもつながっています。

5 文化・芸術・地域交流活動

- ・地域交流や生きがいづくりを目的として、文化・芸術活動を活用した取り組みも多く行われています。
- ・古事記の紙芝居や演劇活動では、地域イベントや神社の夏祭りなどで上演を行い、地域文化の継承と交流促進につなげています。また、演劇の企画や練習を福祉施設等で継続的に行うことで、参加者同士のつながりづくりにも寄与しています。
- ・大正琴やオカリナ、民謡踊りなどの音楽・芸能活動についても、地域イベントや福祉施設等で披露されており、高齢者をはじめとする地域住民の楽しみや交流の機会となっています。
- ・ダンスや演技披露、講座活動、ヘアドネーション活動など、地域イベントへの参加や地域貢献活動を通じて、地域住民との交流を深めている団体もみられました。

6 地域福祉を支えるボランティア・支援ネットワーク活動

- ・地域福祉を支える基盤として、ボランティア活動や地域ネットワークづくりに取り組む団体も多くみられました。
- ・施設や地域からの依頼に応じた訪問ボランティア活動や、福祉センターを拠点とした支援活動などが継続的に行われています。また、ボランティア同士のネットワークづくりや会報発行、機関紙発行などを通じて、情報共有や活動の広がりを図っています。
- ・ソーシャルワーカー団体や里親会など、専門職団体・関係団体との連携を重視する活動もみられ、地域だけでなく広域的な支援ネットワークの形成につながっています。

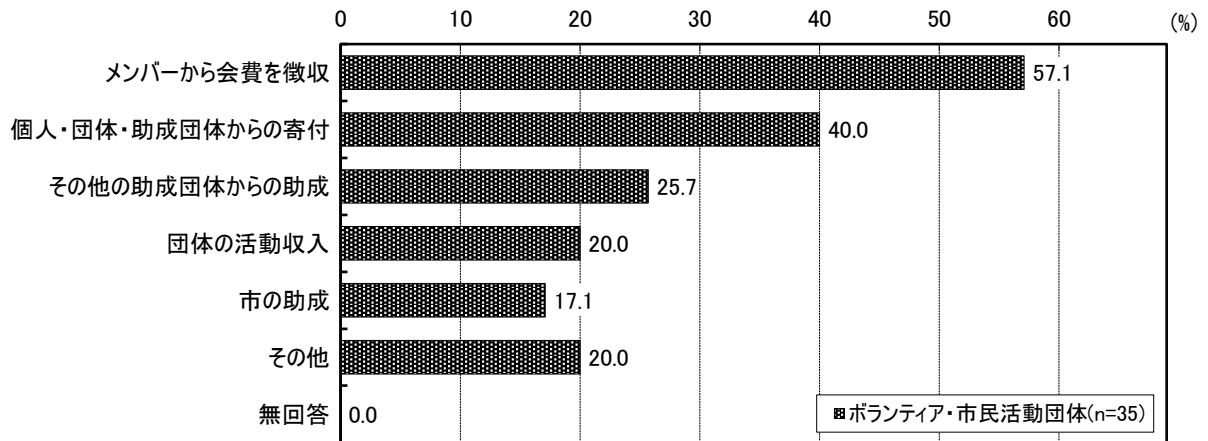
7 環境・動物愛護・地域保全活動

- ・地域環境や生活環境の保全に関する活動も展開されています。
- ・飼い主のいない猫へのTNR活動や里親探し、相談支援、公有地の清掃活動などを通じて、地域課題への対応と住環境の改善を図っています。高齢者の入院や死亡による飼育困難事例への対応など、福祉課題とも密接に関わる支援が行われている点が特徴です。
- ・和泉葛城山のブナ林保全活動では、自然環境を次世代へ継承するための保全活動や観察会、啓発活動が実施されています。小中学生や市民団体との交流を通じて、地域への愛着形成や環境学習にもつながっています。
- ・自然農法や有機農業の研修会、無農薬野菜を活用した料理教室、花の生け込み活動など、健康づくりや地域交流を兼ねた活動も行われています。

8 全体を通じた特徴

- ・全体として、地域における「つながりづくり」「孤立防止」「支え合い」を重視した活動が幅広く展開されていることが特徴です。特に、子ども、高齢者、障害者、生活困窮者など、多様な立場の人を対象としながら、世代や属性を超えて交流できる場づくりが進められています。
- ・単なるサービス提供にとどまらず、「地域で見守る」「地域で支え合う」「地域で参加する」といった地域福祉の理念に基づく活動が多くみられ、行政だけでは担いきれない地域課題を支える重要な役割を果たしていることがうかがえます。
- ・一方で、活動場所の確保、担い手不足、運営資金、参加者の確保など、継続的な活動に向けた課題もみられており、今後は地域団体同士の連携強化や、活動拠点・人材・財源に対する支援の充実が求められます。

⑤あなたの団体の活動財源はどうなっていますか。(あてはまるものすべてに○)



○「メンバーから会費を徴収」が 57.1%と最も多く、次いで「個人・団体・助成団体からの寄付」が 40.0%、「その他の助成団体からの助成」が 25.7%、「団体の活動収入」が 20.0%となっています。

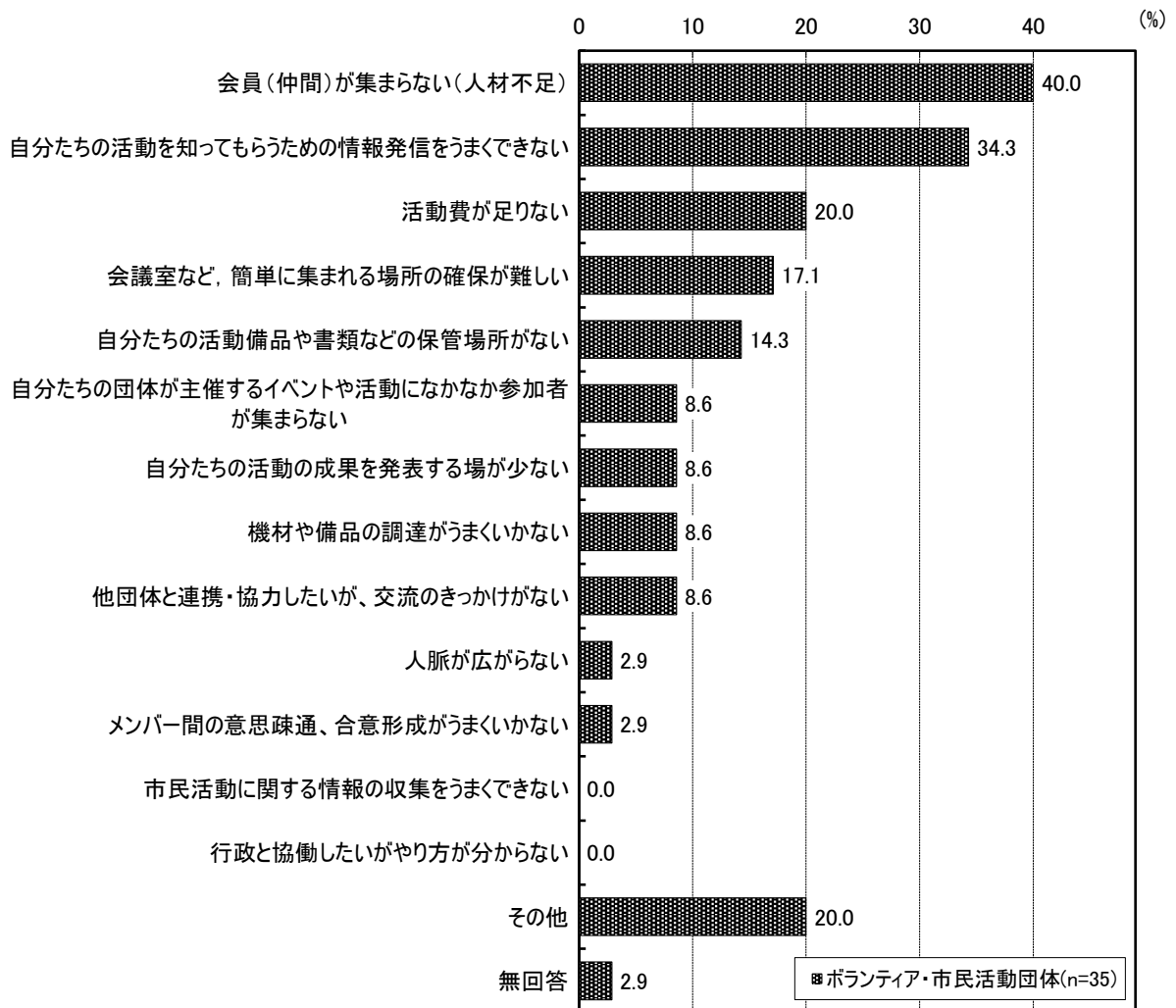
○メンバー 1 か月・1 人あたりの会費は、平均 1,390 円、最低 83.3 円（年に 1,000 円）、最高 6,000 円となっています。

※その他の記述内容

- ・個人
- ・預金利子
- ・高校からのクラブ活動費
- ・手作り品の販売
- ・会費無し・活動時個人等寄付
- ・アルミ缶回収による財政活動

問2 活動上の問題点及び課題についておうかがいします。

①あなたの団体が活動する上で困っていることがありますか。(あてはまるもの3つまで○)



○「会員（仲間）が集まらない（人材不足）」が40.0%と最も多く、次いで「自分たちの活動を知ってもらうための情報発信をうまくできない」が34.3%、「活動費が足りない」が20.0%、「会議室など、簡単に集まれる場所の確保が難しい」が17.1%、「自分たちの活動備品や書類などの保管場所がない」が14.3%などの順となっています。

※その他の記述内容

- ・活動をサポートできるボランティアがほしい。保険や会場申込に動ける人。
- ・事務作業（文書作成や経理等）が担当者の高齢化で課題有。
- ・会員の高齢化により、活動継続が困難。
- ・会員の平均年齢がUP。次世代の方々の加入が少ない。
- ・夏場の空調問題や冷蔵庫の使用、毎回の予約して使用料金が発生する。
- ・性教育に知識・関心・時間のあるスタッフ不足。
- ・他市のように行政と連携できない。

②今後、どのような支援があれば、あなたの団体の活動がますます充実するとお考えですか。
 (あてはまるもの3つまで○)

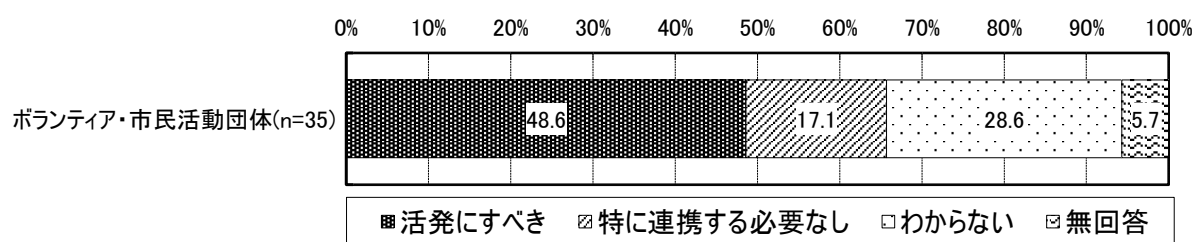


○「市民活動を始めたい人へのきっかけづくり」が 20.0%と最も多く、次いで「行政との協働や行政への橋渡しに関する支援」が 17.1%、「活動を始めたい人と人材を求めている団体のマッチング」「団体の会員募集やイベント告知の広報に関する支援 (HP作成等のIT支援も含む)」「活動団体と行政、教育機関との調整」「展示スペースやイベント告知チラシ・ポスター等の掲示スペースの提供」が 14.3%などとなっています。

※その他の記述内容

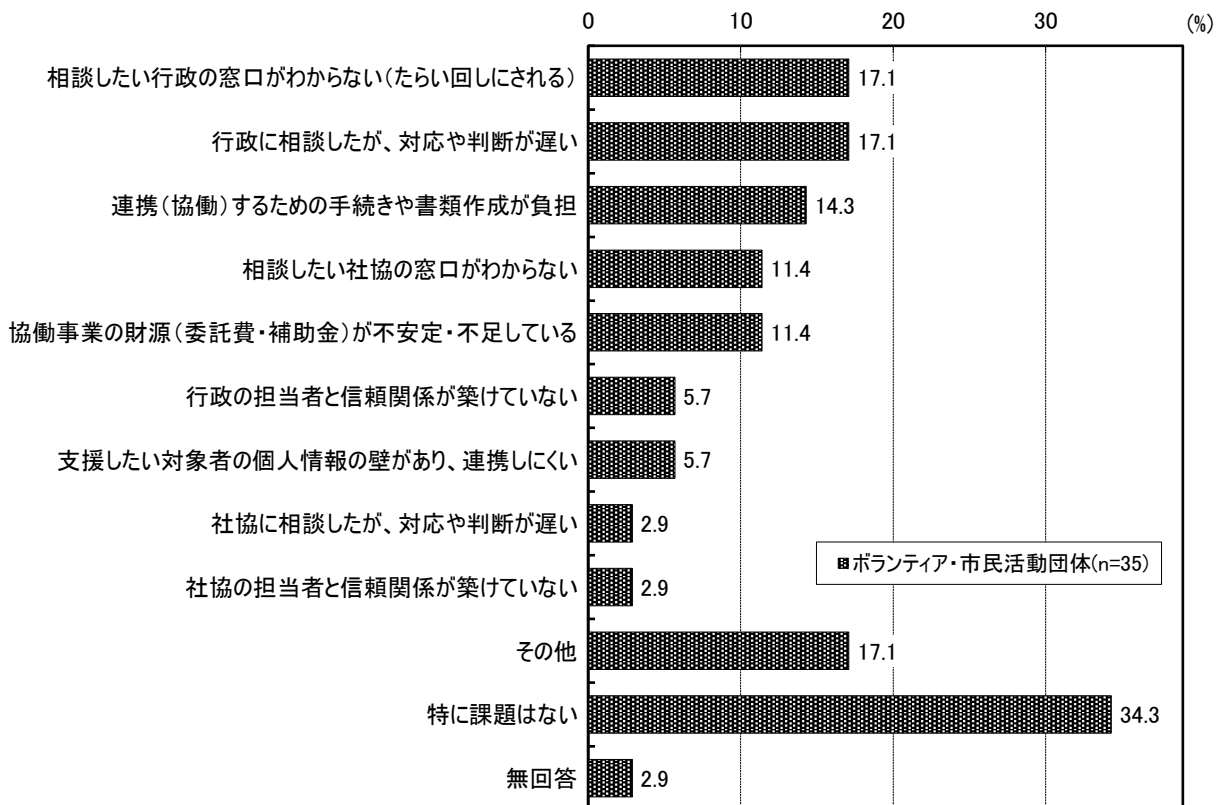
- ・視覚障害者への情報発信
- ・本会と同様の活動を行う団体、企業等が各地域に多くできること。
- ・活動を広げたいが活動内容から参加者の人数を増やせない。性教育に関心・必要性を感じても時間が取れないことからスタッフ不足。
- ・動物愛護管理担当職員を配置すること

③市内の他のボランティア団体や当事者団体等との交流・連携について、どのようにお考えですか。(あてはまるもの1つに○)



○「活発にすべき」が48.6%、「わからない」が28.6%、「特に連携する必要なし」が17.1%となっています。

問3 あなたの団体が、他の団体や行政・社協と連携・協働する上で、課題（やりにくさ）に感じることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



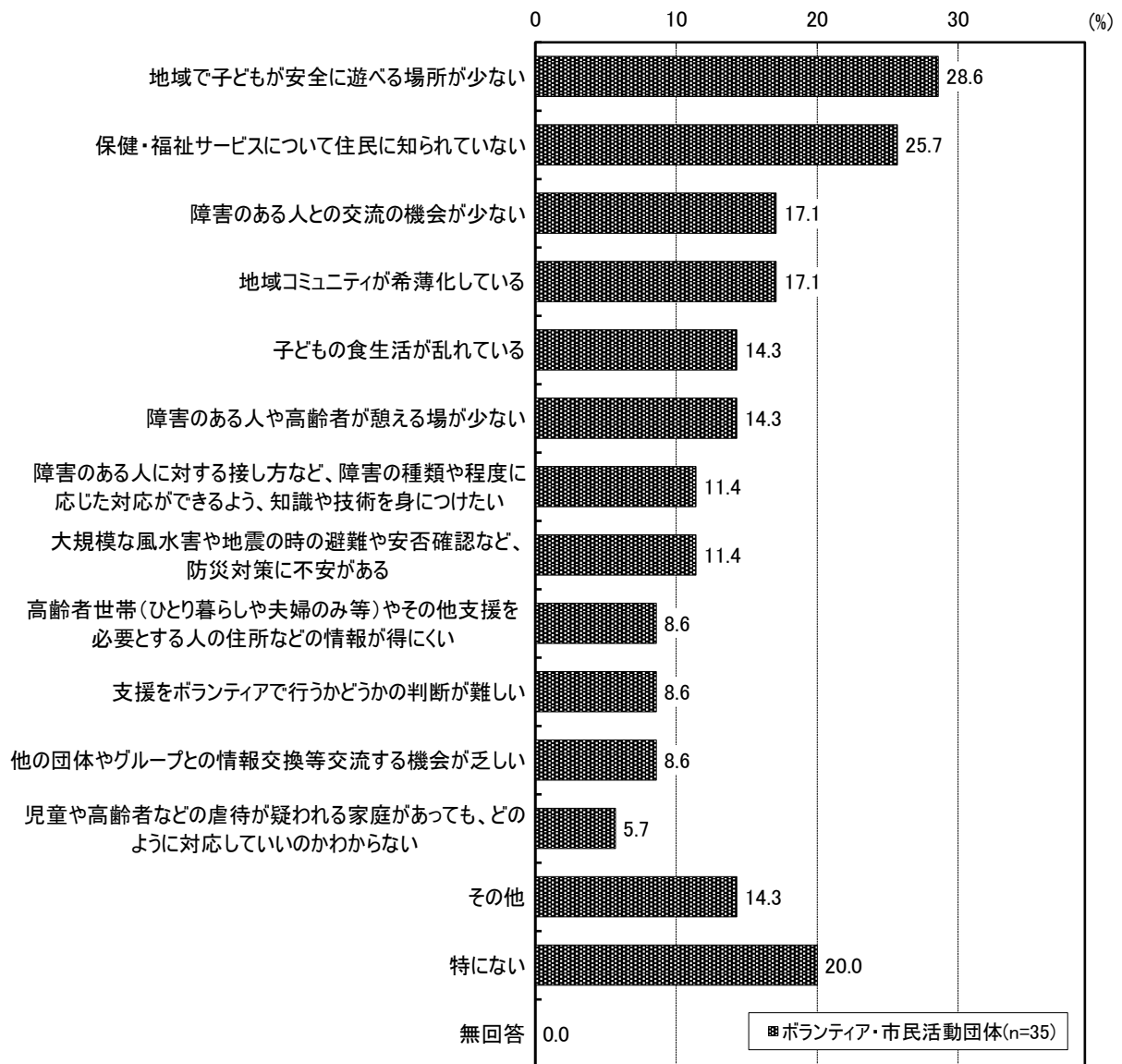
○「特に課題はない」と無回答を除いて、62.8%の団体が何らかの課題を感じており、内容別には「相談したい行政の窓口がわからない（たらい回しにされる）」と「行政に相談したが、対応や判断が遅い」が17.1%、「連携（協働）するための手続きや書類作成が負担」が14.3%、「相談したい社協の窓口がわからない」と「協働事業の財源（委託費・補助金）が不安定・不足している」が11.4%となっています。

※その他の記述内容

- ・里親団体等への支援には民生委員・児童委員の協力が必要だが協力が困難。
- ・これからは行政に相談したい。
- ・活動内容から参加人数に限られる。何度も参加学習しないと効果が出にくい（繰り返し参加で変化・成長している。
- ・行政の施設→もっと積極的に市民活動に対して関わり、財政的支援を。

他2件

問4 地域で活動している中で、住民の福祉に関する課題と感じていることがありますか。(あてはまるもの3つまで○)



○「地域で子どもが安全に遊べる場所が少ない」が28.6%、「保健・福祉サービスについて住民に知られていない」が25.7%、「障害のある人との交流の機会が少ない」と「地域コミュニティが希薄化している」が17.1%、「子どもの食生活が乱れている」と「障害のある人や高齢者が憩える場が少ない」が14.3%となっています。

※その他の記述内容

- ・課題を抱える子どもがいても表面化しづらい。
- ・子どもの声を聞く仕組みがない。子どもが自主的に活動できる場やほっとできる居場所が少ない。
- ・性教育が人権教育で日常生活に深く関わることを知っている人・感じている人が少ない。
- ・担い手不足
- ・内容を知られていない。

問5 問4であげたような課題を解決するために、あなたの所属する団体でできることはどのようなことがありますか。問4の課題の番号を記入してからお書きください。

1 保健・福祉サービスについて住民に知られていない

- ・ 広告、声掛けにて、参加を求めています。
- ・ サロンの集いで、参加者に知らせる。
- ・ まだまだ子ども食堂の周知。地域の人への支援の窓口になれる。

他3件

2 高齢者世帯（ひとり暮らしや夫婦のみ等）やその他支援を必要とする人の住所などの情報が得にくい

- ・ 支援を必要としている人やその近隣の人が、ここが相談にのってくれ、場合によっては行政につなげてくれる場所であることの認識度を上げることで地域の人からの情報を取り入れやすくする。
- ・ 必要であれば演奏会など可能。
- ・ 個人情報なので、限界があります。会報や集会の呼びかけ等、こちらから発信する方法を今後も続けます。

3 児童や高齢者などの虐待が疑われる家庭があっても、どのように対応していいのかわからない

- ・ 緊急の避難先、居場所としての場所の活用。
- ・ 家庭訪問をして、信頼関係ができるまで、お話を傾聴しています。

4 障害のある人に対する接し方など、障害の種類や程度に応じた対応ができるよう、知識や技術を身につけたい

- ・ 視覚障害者への歩行サポートや接し方を教える勉強会。
- ・ 点字の紹介。
- ・ 学生向けに学ぶ場を設けて、多くの人が集まるイベントに出演した際などに、課題を「課題」として広く認知してもらえるような情報発信を行うこと。

他1件

5 大規模な風水害や地震の時の避難や安否確認など、防災対策に不安がある

- ・ 市役所危機管理課・障害者支援課が検討中の「防災パンフレット」の件や避難所での情報保障について岸障連とともに要求していく。
- ・ 会員についてはグループ LINE で安否確認はできると思われるが、関係者については不明。防災対策ならなおのこと、できることはわからない。

他1件

6 地域で子どもが安全に遊べる場所が少ない

- ・児童館のようなスペースがあれば、運営側として連携できる。
- ・室内で遊べるものを用意して、親子で遊べるスペースづくり。
- ・異年齢の子ども同士が安全に遊ぶ場の提供。
- ・里親さんには里子さんの個人情報を守るため、地域での市民との交流が困難な面がある。地域の住民や民生・児童委員、教員等が協力して児童支援が図れるような関係ができる。市民に対する里親活動等への偏見をなくすような研修や協力関係づくりが必要で社協に登録されている各団体等と里親会さんの活動協力が図られるようなことから協力できないであろうか。

他2件

7 子どもの食生活が乱れている

- ・親子で一緒にクッキング。
- ・子ども食堂に来ている時に、理解してもらえるように話かけています。
- ・無農薬・化学肥料不使用の食の大切さ推進。自然農法有機農業研修会・料理教室。
- ・子どもを対象とする活動ではありませんが、動物においても食べるものは大事なもので、動物愛護がひいては子供の問題にも通じる活動になればと考えています。

8 障害のある人との交流の機会が少ない

- ・視覚障害者の方達にどんな音訳図書どんな記事が知りたいかと話し合う交流の場をつくる。
- ・必要であれば演奏会など可能・
- ・時間が合えば気軽に参加できる交流の場のスタッフとしての協力。

9 障害のある人や高齢者が憩える場が少ない

- ・時間を気にせず、ゆっくりできる場所を作りたいと検討中。
- ・障害があっても外に行く場所がない方、また独居で閉じこもり、人とコミュニケーションをとるのが苦手な高齢者の方も気軽に遊びに来れるスペース（居場所）を提供。
- ・市役所・障害者支援課等が検討中の「手話サロン」が実施されるようなら協力したいと考えている。
- ・天神山地域内での広範囲のチラシ配りや、近隣の方々への声かけなど、一人でも参加できやすい雰囲気づくりが必要だと思います。
- ・居場所づくり設営スタッフとして協力したい。

10 地域コミュニティが希薄化している

- ・出産後や親子のサポートをすることで居場所づくりを通して地域の人たちとつながることができる。
- ・場所をお借りしている町会の方々と連携を図る。
- ・地域に属している意識のない世帯が増えているので、猫のTNRを通じて命の尊厳を学んでもらうきっかけづくりができる。
- ・私たちができることは笑顔でサービスすることでしょうか。私たちボランティア含め皆の居場所なのですから。(大人も子どもも)

他1件

11 支援をボランティアで行うかどうかの判断が難しい

- ・必要であれば演奏会など可能。
- ・支援が難しい場合は行政等に相談する。
- ・ネット上での怪しい寄付集めが問題になっていますので、寄付は募っておりません。しかし、獣医療費やフード砂代も高騰しているため、すべてボランティア負担では続けられません。実費額を明確にすることや、ボランティア活動と事業の線引きが求められます。寄付に頼らず、アルミ缶の財政活動を続けています。

12 他の団体やグループとの情報交換等交流する機会が乏しい

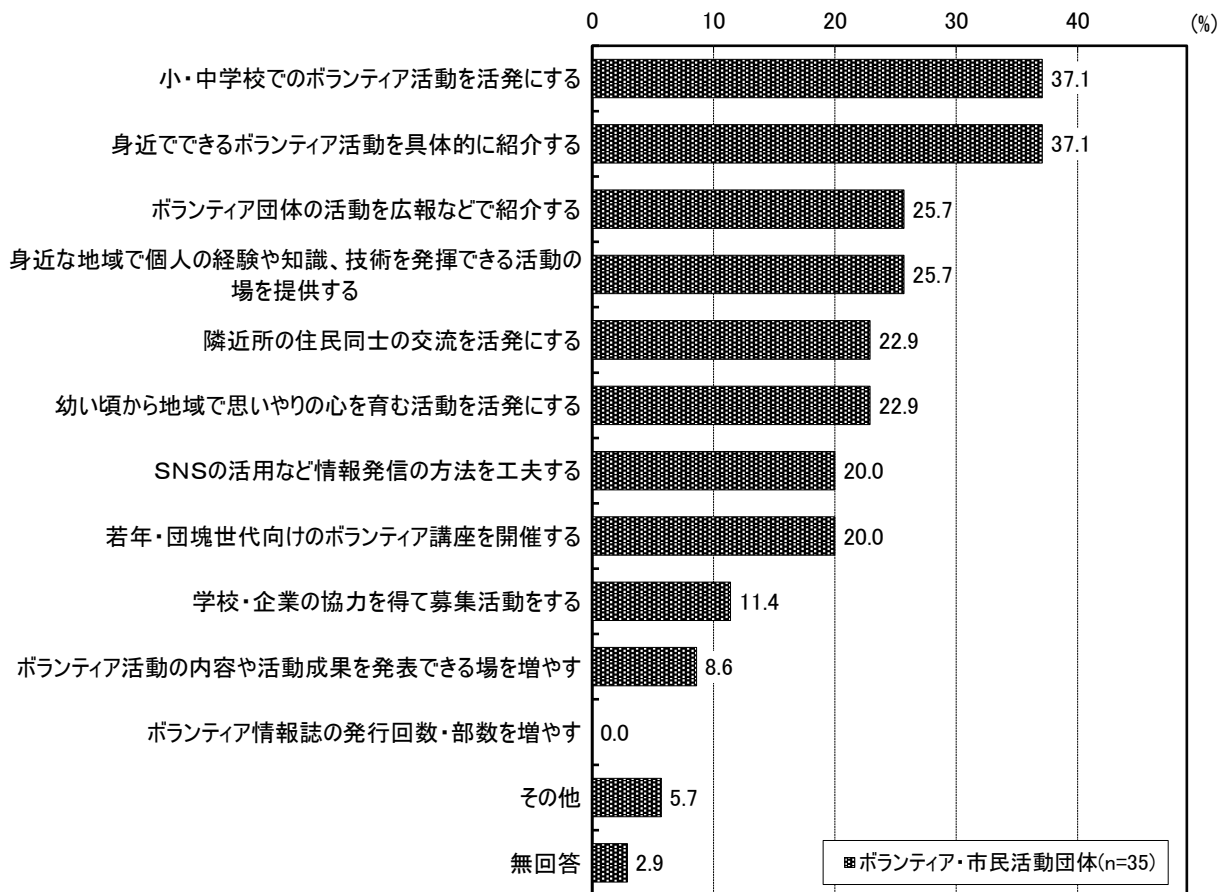
- ・横のつながりをつけることで、地域の課題を共有することができ支援の広がりが出てくる。
- ・ボランティア連絡会の参加など。
- ・中央公園など、複数の団体・個人が関わっている場所があり、交流があれば、一緒にTNRし効率的な活動を行うことができる。

13 その他

- ・小中学校の先生方と情報共有・連携する。
- ・子どもの声を聴くアドボカシー活動。子どもの困りごとに寄り添い気持ちを聴く。子どもたちに自分の権利について伝える。
- ・子どもに関わる人に対しての学習会や日常の地域での子ども向けの取り組みへの参加。
- ・担い手の人数に合わせて活動規模を縮小するか、負担にならない方法を考える。

他1件

問6 ボランティア活動は、定年退職者が中心となっています。若い世代のボランティア活動を促進するためには、どのようなことが必要と思われますか。(あてはまるもの3つまで○)



○「小・中学校でのボランティア活動を活発にする」と「身近でできるボランティア活動を具体的に紹介する」が37.1%、「ボランティア団体の活動を広報などで紹介する」と「身近な地域で個人の経験や知識、技術を発揮できる活動の場を提供する」が25.7%、「隣近所の住民同士の交流を活発にする」と「幼い頃から地域で思いやりの心を育む活動を活発にする」が22.9%、「SNSの活用など情報発信の方法を工夫する」と「若年・団塊世代向けのボランティア講座を開催する」が20.0%などとなっています。

※その他の記述内容

- ・隣に新築住宅群の子どもたちと仲よしクリスマス会を開いた。個人宅でも小さな楽しい集まりができるので、食べ物の衛生面もあるが注意書きとともにご近所交流会を勧めてはどうか。市の広報などで記事にしては。
- ・手話の会さんのように、知識や資格取得等のメリットが得られる活動内容を検討中。

問7 岸和田市、岸和田市社会福祉協議会へのご意見、ご提案、ご要望をどのようなことでも結構ですでお書きください。（自由記述）

<岸和田市に対して>

1 ボランティア活動への理解・支援

- ・ボランティア活動への理解を今以上に深め、広報なども含めた協力をお願いしたいという意見がありました。また、活動しているボランティア団体の情報を市民にわかるよう開示してほしいという声もみられました。
- ・地域で活動する団体に対し、以前より協力的になったことで、地域でボランティア活動を行う安心感が持てるようになったという意見もありました。
- ・一方で、NPO法人への指導や報告義務に多くの時間を要し、活動の妨げになっているという意見もありました。公金や税金に頼らず活動しているにもかかわらず、行政対応に不満を感じているとの声もみられました。

2 活動場所・施設設備・利用環境

- ・設備面について、Wi-Fi 導入を希望しても「予算がない」と言われ対応されず、不便を感じているという意見がありました。また、要望先の担当部署がわかりにくいという声もみられました。
- ・福祉センターのカラオケ設備が古く、更新の要望を出しても予算がないとして対応されなかったという意見がありました。難病の人にとって声を出すことがりハビリになっていることを伝えても対応されず、最終的には寄附によって新しい機器が導入されたとのことでした。
- ・老朽化した施設については、廃止ではなく建て替えをしてほしいという要望がありました。また、既存施設の数でも不足しているように感じるという意見もみられました。
- ・活動場所については、利用予約が2～3日前という制限があり利用しにくいという声や、子ども食堂の使用料金を無料にしてほしいという要望もありました。

3 子ども・子育て支援

- ・家庭で子育てをしている保護者向けの支援を充実してほしいという意見がありました。集いのひろばなどについて、NPOに委託して拡充してほしいという声もみられました。
- ・岸和田市として、10年後、20年後を見据えた子ども施策を立ててほしいという意見がありました。また、子どもやその親が「岸和田市に住んでよかった」と思えるような子育て支援や子ども支援を求める声もありました。
- ・放課後に子どもが自由にきて活動できる児童館のような施設や居場所が必要であるという意見もみられました。
- ・子ども食堂については、市としてしっかりサポートしてほしいという要望や、運営上の問題点について行政と話し合う場がほしいという意見がありました。

- ・岸和田市内には 30 か所の子ども食堂があり、食事提供だけでなく居場所や交流の場となっていること、中学生や障害のある人が役割を持って活躍できる場になっていることが述べられていました。社会福祉協議会からは立ち上げや継続、資金面、情報提供など多くの支援を受けている一方で、市の関わりは大阪府からの情報伝達に留まっているように感じるという意見もみられました。

4 高齢者支援・外出支援

- ・超高齢化社会の中では、子どものひきこもりよりも高齢者のひきこもりが多いのではないかという意見がありました。そのため、お笑いや昔懐かしいイベントなどを地区公民館で実施し、歩いてでも出かけたくくなるような機会を増やしてほしいという提案がありました。
- ・運転免許証を返納した高齢者には移動手段がないという意見もありました。自転車が安全に通れる道路環境や、バスを利用しやすい環境、誰でも気軽に利用できるコミュニティセンターを求める声がみられました。
- ・元気な高齢者を増やす取り組みを進めてほしいという意見もありました。

5 障害のある人への支援・情報保障

- ・障害支援課に視覚障害者パソコン勉強会のチラシを置かせてほしいという要望がありました。
- ・市役所内で手話の普及を進めてほしいという意見や、各部課でスムーズに対応できるよう手話通訳を配置してほしいという要望もみられました。

6 里親支援・子どもの権利

- ・里親委託への転換について提言を行ってきた結果、大阪府では里親要件の改訂が進み、国でも子ども家庭庁の設置や法改正が進められている一方で、岸和田市では従来の施設措置が継続され、里親団体活動への協力が十分ではなかったという意見がありました。

7 地域猫活動・動物愛護

- ・地域猫活動に対する理解を深めてもらうため、市職員を含めた啓発を行ってほしいという意見がありました。また、近隣市町と同様に、不妊手術への助成金を出してほしいという要望もみられました。
- ・危機管理課でペット同行避難対策に取り組まれていることに触れたうえで、動物愛護の専用窓口がなくても、福祉関係部署で高齢者とペットの問題に取り組めるのではないかという意見もありました。

8 行政対応・相談体制

- ・要望先の担当部署がわかりにくいという意見や、福祉センターと市の障害者福祉担当との間で申請が差し戻されたという意見がありました。
- ・財政が厳しい中でも、本当に必要な経費は維持してほしいという声もみられました。お金をかけなくても「声が届いた」と感じられる対応を考えてほしいという意見もありました。

9 世代間交流・地域共生

- ・高齢者グループが子ども食堂など子どもに関わる活動を行うことで、親世代も関わるようになり、世代間交流につながる事例があるとの意見がありました。また、その中から子どもや親がボランティア活動に関心を持ち、徐々に活動に参加できるような雰囲気をつくればよいという意見もみられました。
- ・そのためには短期ではなく、3年以上の中長期的な関わりが必要であり、ボランティアスタッフが楽しく、余裕を持って活動できるようフォローしてほしいという声もありました。

<岸和田市社会福祉協議会に対して>

1 社会福祉協議会への感謝・継続支援

- ・社会福祉協議会に対して、「今後もよろしくお願いします」「いつもお世話になってます」「支援いただけてありがたく思っています」など、日頃の支援に対する感謝の意見が多くみられました。いきいき歌体操グループでは現在の支援内容に満足しているという意見もありました。また、子ども食堂やボランティア団体への情報提供やサポートについて感謝する声もありました。
- ・助成金については、「とても助かっている」「活動がしやすくなった」といった意見があり、以前は団体の持ち出しで活動していたが、助成制度によって活動継続がしやすくなったという声もみられました。
- ・フードドライブについては、食材提供を受けたことへの感謝の声や、スーパーや銀行にもフードコンテナが設置されていることに感動したという意見がありました。

2 団体同士の連携・交流

- ・支援団体、行政、社会福祉協議会が同じテーブルにつき、地域課題について共有できる場を設置してほしいという意見がありました。以前実施されていた「子育て応援団」のような場を再び求める声もみられました。
- ・ボランティア団体同士がつながれる場を増やしてほしいという意見もありました。声をかけてもらえれば協力できることもあるため、気軽に相談や連携ができる LINE グループなどを作ってはどうかという提案もありました。
- ・市民活動をつなげる取り組みを今後も続けてほしいという意見や、ボランティアスタッフの発掘にさらに力を入れてほしいという声もみられました。

3 社会福祉協議会職員体制・専門性

- ・社会福祉協議会の職員数が少ないのではないかという意見がありました。経験の少ない職員に質問しても回答が返ってこない、または返答に時間がかかることがあるため、人員を増やし、ボランティア団体とよりスムーズに協働できるようにしてほしいという声がみられました。
- ・社会福祉協議会の役割は重要であり、これまでのような元市職員や民生委員協議会関係者だけでなく、社会福祉や医療福祉に実績があり、若いケースワーカー職員にスーパーバイズできる人材を登用する必要があるという意見もありました。

4 貸室・施設利用手続き

- ・貸室申込について、ネットや電話で手続きできるようにしてほしいという要望がありました。難病の会員が多く、移動が難しい中で、高齢の会員が一人で予約対応を担っているという状況が述べられていました。また、団体加入保険の申込みについても、窓口以外で手続きできるようにしてほしいという意見がありました。
- ・部屋予約については、「借りる部屋を取るのが大変」「1年間継続利用できる制度があればよい」といった意見もみられました。
- ・場所予約が取りにくいことへの改善要望や、貸館について当日の利用申請ができないことへの意見もありました。実際には利用していない時間帯があるように見えるため、空いている時間を別団体が利用できるよう柔軟に対応してほしいという声もありました。

5 申請手続き・窓口対応

- ・提出物について、サポートセンターが閉館日でも社会福祉協議会窓口で預かってもらえるような柔軟な対応をしてほしいという意見がありました。
- ・貸館申請とボランティア登録手続きをまとめてほしい、申請書類を簡素化してほしいという要望もみられました。
- ・社会福祉協議会の方が市に対するよりも話しやすいという意見もあり、その理由として、普段から話す機会があることが大きいのではないかという声がありました。

6 情報提供・情報発信

- ・助成金情報や申請サポートをもっと行ってほしいという意見がありました。
- ・必要としている高齢者施設への紹介の場があればよいという声もありました。
- ・利用者に対して情報を広く案内してほしいという意見や、「情報の発信」を求める声もみられました。

7 障害のある人への配慮・コミュニケーション支援

- ・福祉センター内で、聞こえない人や聞こえにくい人も不便なくコミュニケーションできるよう、手話通訳を配置してほしいという意見がありました。福祉センターだからこそ、聞こえる人と同じように利用できる対応を求める声がみられました。

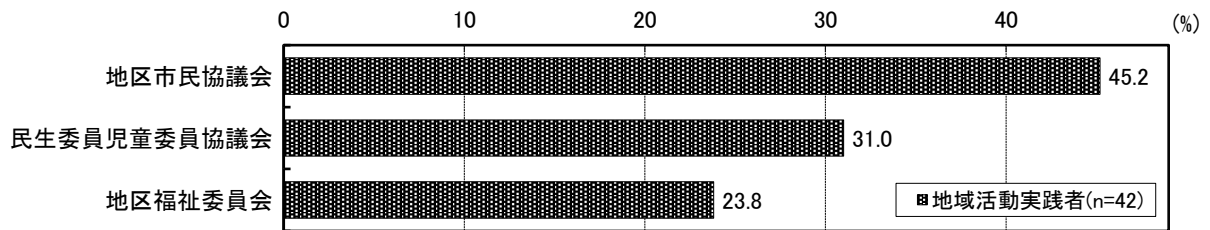
8 行政との連携

- ・子ども食堂やボランティア団体への支援に感謝する声がある一方で、行政との連携が非常に重要であるため、今後も上手く連携を図ってほしいという意見がありました。
- ・福祉センターのイベントに市職員をもっと呼んでほしいという声もありました。社会福祉協議会の方が話しやすいと感じる背景には、日頃から接する機会の違いがあるのではないかという意見もみられました。

②地域における活動実践者に対するアンケート調査

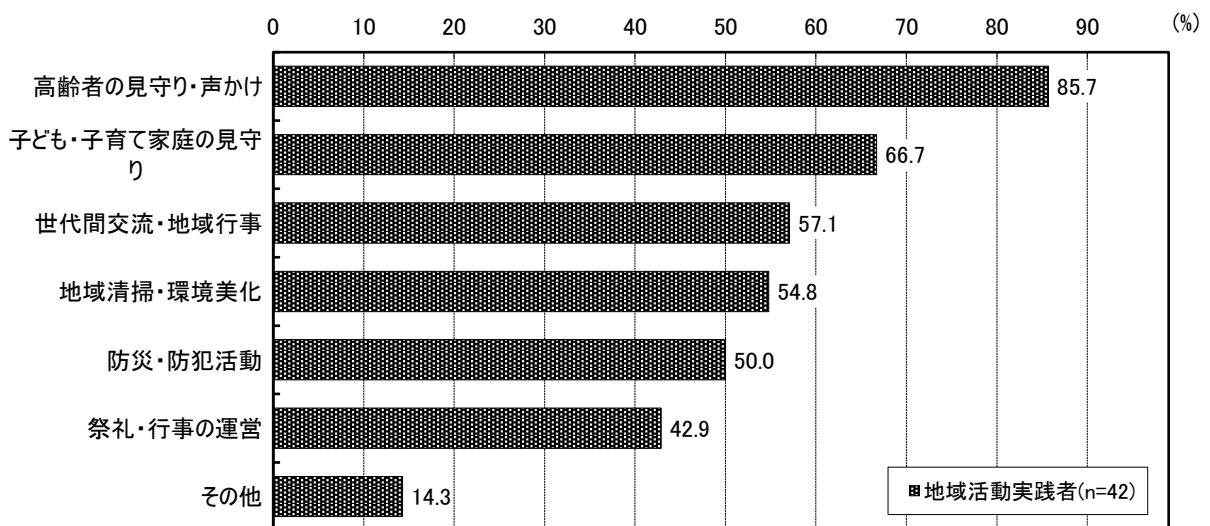
※令和8(2026)年2月～3月に実施。3団体42名から回答。

◆所属団体



○「地区市民協議会」が 45.2%、「民生委員児童委員協議会」が 31.0%、「地区福祉委員会」が 23.8%となっています。

問1 あなたの団体で主に取り組んでいる活動を教えてください。(複数回答可)

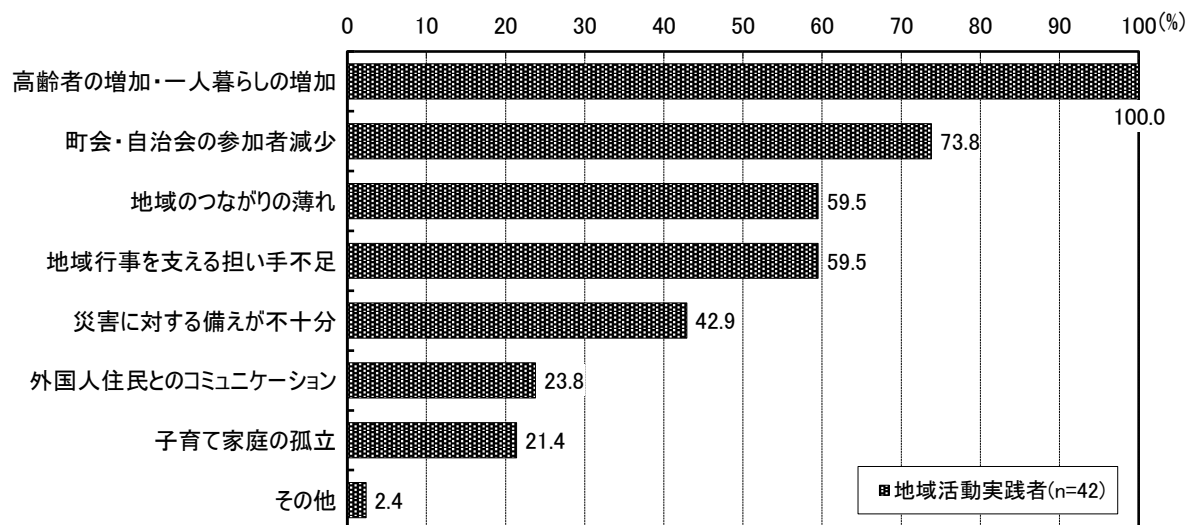


○「高齢者の見守り・声かけ」が 85.7%と最も多く、次いで「子ども・子育て家庭の見守り」が 66.7%、「世代間交流・地域行事」が 57.1%、「地域清掃・環境美化」が 54.8%、「防災・防犯活動」が 50.0%、「祭礼・行事の運営」が 42.9%の順となっています。

※その他の記述内容

- ・高齢者向けのいきいきサロン
- ・ひとり暮らし高齢者給食会、百歳体操
- ・主に高齢者世帯の介護支援前の方のサポート（一部町会のみ）
- ・男の料理教室他
- ・生活困窮者の見守り
- ・年間の行事の運営

問2 地域の中で、あなたが「特に気になる」と感じる課題を教えてください。（複数回答可）

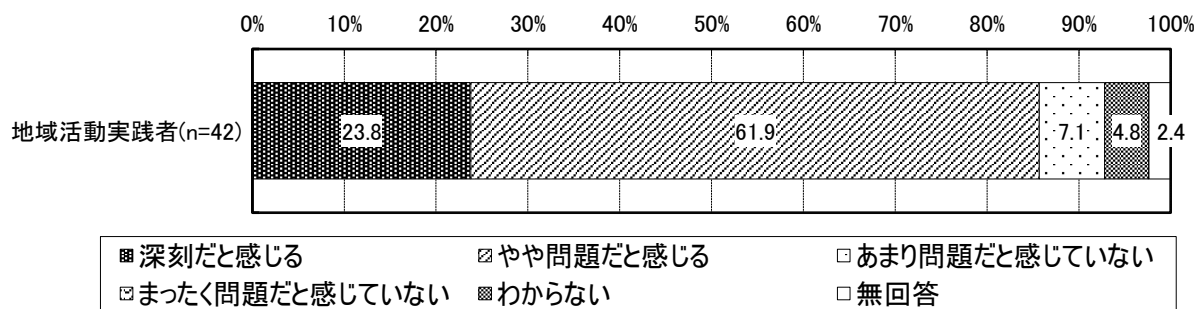


○全員が「高齢者の増加・一人暮らしの増加」を挙げるほか、「町会・自治会の参加者減少」が73.8%、「地域のつながりの薄れ」が59.5%、「地域行事を支える担い手不足」が59.5%、「災害に対する備えが不十分」が42.9%の順となっています。

※その他の記述内容

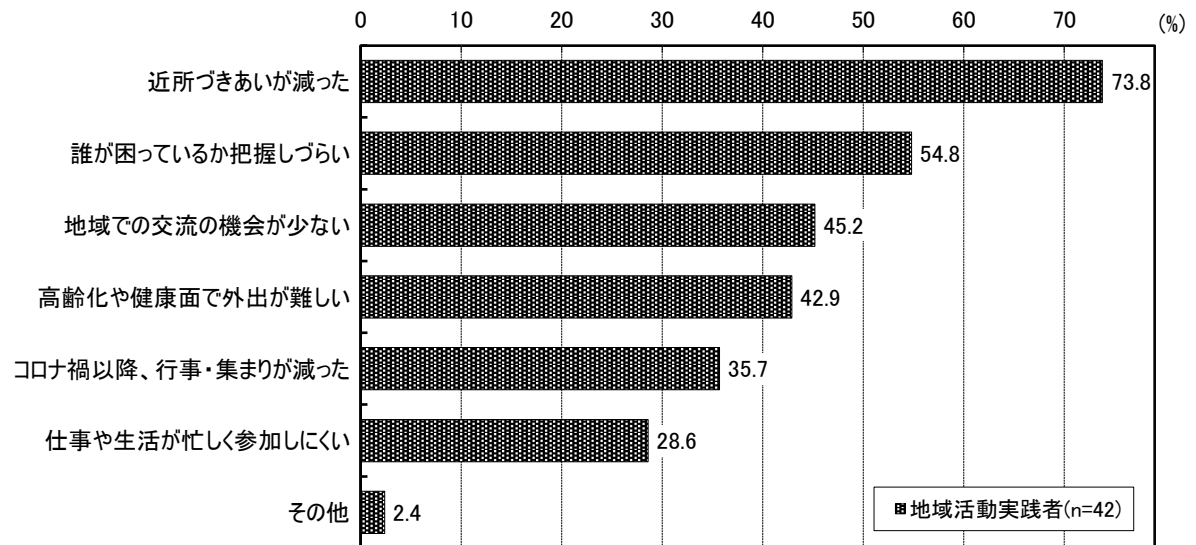
- ・支援が必要なのに、民間（地域）では入りきれない。

問3 地域の「孤立・孤独」について、どの程度問題だと感じていますか。



○「やや問題だと感じる」が61.9%、「深刻だと感じる」が23.8%となっています。

問4 孤立・孤独が起こりやすい理由として、当てはまるものを教えてください。（複数回答可）

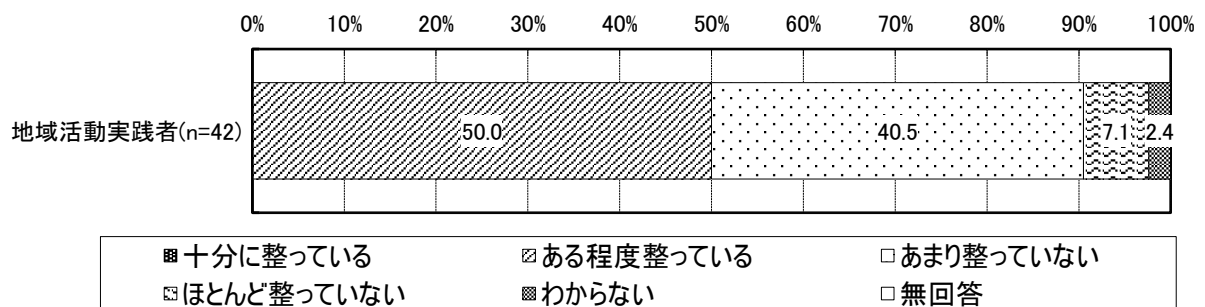


○「近所づきあいが減った」が 73.8 と最も多く、次いで「誰が困っているか把握しづらい」が 54.8%、「地域での交流の機会が少ない」が 45.2%、「高齢化や健康面で外出が難しい」が 42.9%、「コロナ禍以降、行事・集まりが減った」が 35.7%、「仕事や生活が忙しく参加しにくい」が 28.6%の順となっています。

※その他の記述内容

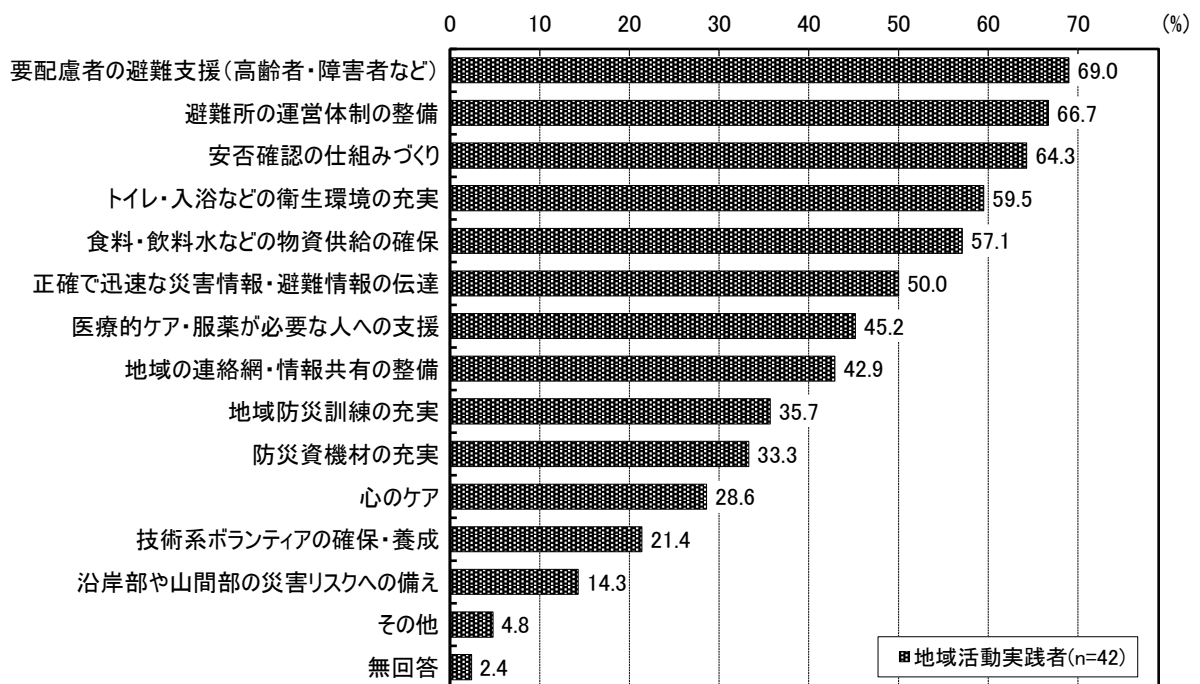
- ・フルタイムの働き手が増え、さらに働く人も高齢化。リタイアしてから地域に戻っても、知り合いが居ない。

問5 災害や緊急時の地域の支え合い体制について、どのように感じていますか。



○「ある程度整っている」が 50.0%、「あまり整っていない」が 40.5%と意見が分かれています。

問6 災害・緊急時の支援で必要だと思うことを教えてください。(複数回答可)

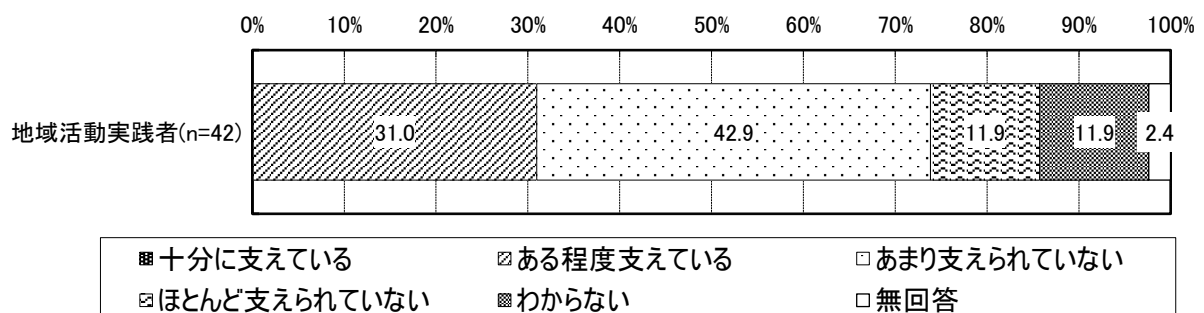


○「要配慮者の避難支援（高齢者・障害者など）」が 69.0%と最も多く、次いで「避難所の運営体制の整備」が 66.7%、「安否確認の仕組みづくり」が 64.3%、「トイレ・入浴などの衛生環境の充実」が 59.5%、「食料・飲料水などの物資供給の確保」が 57.1%、「正確で迅速な災害情報・避難情報の伝達」が 50.0%などとなっています。

※その他の記述内容

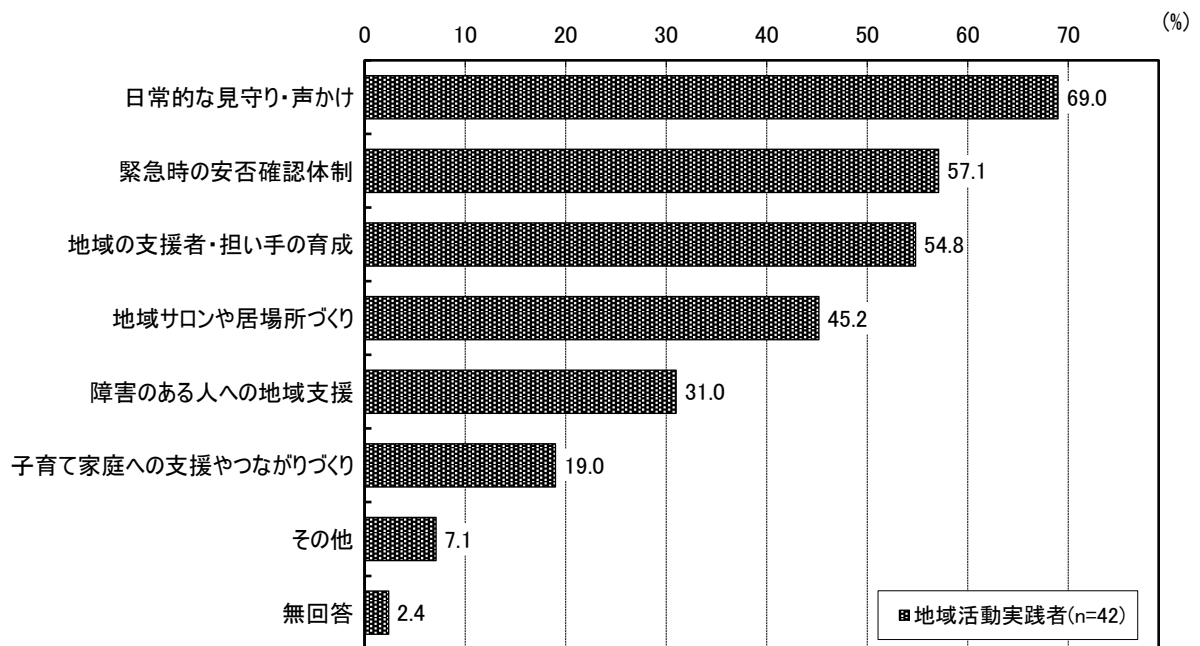
- ・ 高齢化して参加者の減少、参加者が決まっている。
- ・ 町会によってバラつきがある。この質問を見て足りないと感じました。

問7 要配慮者（高齢者・障害者・子育て家庭など）への支援状況について、どのように感じていますか。



○「あまり支えられていない」が 42.9%、「ある程度支えている」が 31.0%と意見が分かれています。

問8 要配慮者支援で強化すべき点を教えてください。(複数回答可)

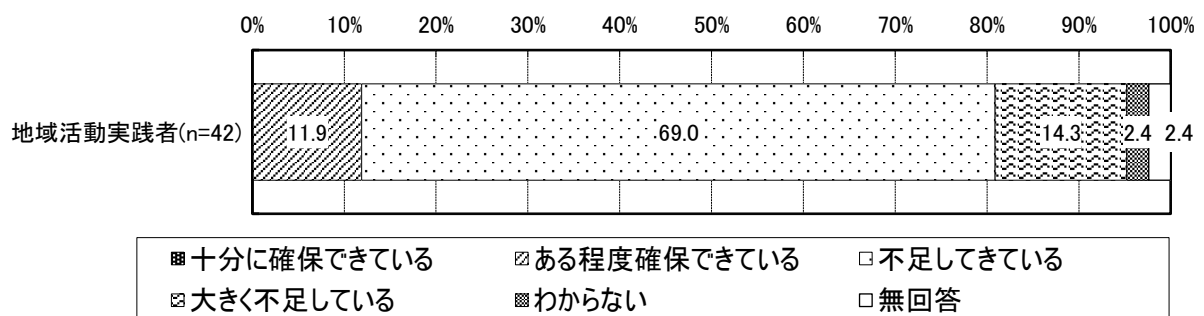


○「日常적인見守り・声かけ」が 69.0%と最も多く、次いで「緊急時の安否確認体制」が 57.1%、「地域の支援者・担い手の育成」が 54.8%、「地域サロンや居場所づくり」が 45.2%の順となっています。

※その他の記述内容

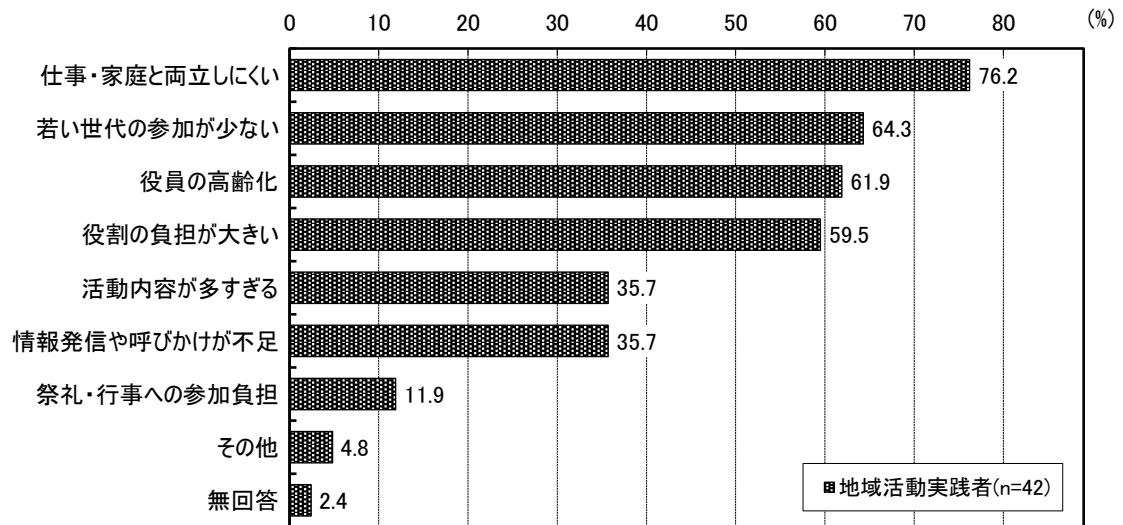
- ・声かけするきっかけが必要。
- ・日常的ではないが、一定程度見守り・声掛けは実施。
- ・要配慮者家族等との対話。

問9 団体の”担い手（人手）”について、どのように感じていますか。



○「不足してきている」が 69.0%となっています。

問 10 担い手・後継者が不足する理由として、あてはまるものを教えてください。（複数回答可）



○「仕事・家庭と両立しにくい」が 76.2%と最も多く、次いで「若い世代の参加が少ない」が 64.3%、「役員の高齢化」が 61.9%、「役割の負担が大きい」が 59.5%、「活動内容が多すぎる」と「情報発信や呼びかけが不足」が 35.7%の順となっています。

※その他の記述内容

- ・ 役員の負担を軽減、参加しやすくするために工夫中。それでも、誰でもと言うわけにいかず、難しい。社会教育が必要。

問 11 その他、地域福祉の推進に関してご意見・ご要望があればご記入ください。(自由記述)

- ・地域福祉の推進のために行動するということは、自分自身のために行動していると捉えているがひとりでは何もできない。そのため各町会・福祉委員会・民生児童委員などとの協力が必要である。その役目を担う担い手がなかなか集まらない。そのことによって活動も停滞している部分が大きいと思う。担い手の育成として児童に対してゲーム感覚でボランティア活動に取り組んでいる事例を聞いたことがあるが、少しずつその精神を根づかせていくことを学校教育の中で取り入れていけば良いと思っている。
- ・高齢者が増える一方で町会に加入しない家庭も増え、住民が支えあうまちづくりが重要になると思います。若い世代が子育て世帯として参加できる防災訓練や、赤ちゃんサロン、高齢者の見守り活動などが、住民同士安心して暮らせるまちづくりに必要かと考えます
- ・地域福祉への考え方が世代間で異なり、高齢で今まで役を担ってきた方々は自分たちのしてきたことをするのが当たり前のように思われているが、時代は変わり、特にコロナ後は 60 代でも働いている方がほとんどの中でやりくりしながら、役を引き受けてくださってるのに今までのやり方を主張されると荷が重くなって余計に役を引き受ける方はいなくなるのではと不安に思っている。
- ・地域住民がもっと関心や興味をもってくれるような行事や団体のあり方が必要である。福祉サロンや子ども食堂といった行事にもやはり送迎などが必要であり、若い世代は共働きが多くて仕事、家庭で両立するのが精一杯でなかなか協力できないとなると、お年寄りが頑張ってもらうしかないと思います。
- ・高齢化が進み、担い手不足です。
福祉サービスや娯楽情報等が高齢者に広く届けられるような広報の充実が図れればと考えます。
赤ちゃん訪問事業は廃止されましたが、地域として把握できるメリットがありました。また、子育て世代が地域とつながる機会でもありました。
岸和田市の民生児童委員の会報と作っていますが配付部数が少ないので活用上もったいないと思います。
- ・地域と行政の関係強化
- ・私の家の周辺では、大きな古い家を取り壊されたり、農地が宅地化されたりすると、5 軒から 20 軒程の新しい家が立ち子育て家庭の塊がポツリポツリとあちこちにある、一見若くて元気な街並みに見えますが、塊の周りの家庭はほとんどが高齢者が一人か二人で暮らしています。今の若い方たちは全て共稼ぎで日中不在、高齢者はあまり出歩かないため、日中は人けがありません。
- ・地域福祉の推進には、ボランティアだけでなく、行政の積極的な関わりが必要です。
- ・市民協議会の会議等に、是非とも福祉政策課・危機管理課・自治振興課・社会福祉協議会の方々に揃って参加してほしいです。通常の活動以外の防災防犯面でも、揃ってないと問題点が伝えにくく、市民にはわかりにくいので。
- ・今回、市民協議会として、記載してます。子どもや高齢者への支援は民生委員として活動しております。

- ・日頃より、地域福祉の推進にご尽力いただき、誠にありがとうございます。地域では高齢化や生活環境の変化により、人と人とのつながりが薄れて見守りや支え合いの大切さを実感する場面が増えています。また、支援内容も多様化し地域だけでの対応が難しいケースも見受けられます。こうした状況の中、行政や社会福祉協議会との連携や情報共有の充実が地域福祉を進めるうえで、一層重要になると感じております。今後も地域の実情に寄り添った施策が進み、住民が安心して暮らせる地域づくりが広がることを願っております。地域としても、関係機関と協力しながらできることを大切に積み重ねていきたいと考えております。
- ・個人情報保護より個人の命が大事だと思います。
- ・高齢者の方の病院、大型スーパーなどの送迎が必要になってくる。
- ・各種団体が同じ目線で防災等に取り組むも、いざ災害が起きた時、どの団体が中心となり指示をだすのか。横のつながりがないように思う。
- ・防災訓練は町会主体でここ数年、1回／年だが継続しているものの、町会への未加入世帯が増えて来ている中、いざと言う時は、町会加入有無に関わらず支援が必要なはず。
→上手く取り組んでいる事例があれば、情報をいただきたい。
- ・岸和田市全体的に高齢化、少子化が進んでいることから、すべての事案について、担い手不足につながっていると思う。地域行事は祭礼が中心となっており、祭礼に参加していない人はイベントへ参加しづらい雰囲気がある。市役所、学校、他の公共施設も古く、また子育て支援も充実していないように思えます。他の地域から岸和田市に移住したいと思えるような街づくりになっていない。昔は岸和田市が泉州地域のトップだったが、今は和泉市や泉大津市の方が栄えている感じがする。地域福祉を充実させるためにも、岸和田全体が活気のある魅力的な街にならないと、単に地域福祉だけを考えても、財政も人材も足りてなければ解決できないと思います。

③関係団体に対するアンケート調査

※令和8(2026)年2月～3月に実施。4団体7名から回答。

○貴団体について伺います。

◆団体として抱える現在の主な問題・課題についてお教えてください。

○市P協議会の役員なり手不足。3年に一度、単位Pの持ち回りで役員を出しているが、単位Pと掛け持ちになるので参加する役員に負担がかかる。単位Pによってはやる気がなさすぎて、1回も顔を出さない、教員に役員を押し付けるなど言語道断。怒る以前に呆れて物も言えない。これも後述の単位Pのなり手不足の影響がありそう。

宛て職が多い（役員数を減らせない）負担軽減の観点から、市P役員の持ち回りを5年や6年に1回にする方法も考えられるが、宛て職が多く、役員数を減らしにくい

単位Pとの交流不足（市P研修会の活用）市P研修会があるが、2月だと時期が遅く感じた。早めにやる＋年2回もありか。昨年は単位P役員として参加したが、フリーディスカッションだけで市Pの活動について何もわからなかった。今年は府P大会の報告をし、活動内容（方向性）を伝えるきっかけにできた。来年以降続けてほしい。

単位Pの役員なり手不足。単位Pで役員の選び方が異なる→うまくいってる単位Pもあるが…。そもそもの保護者数が減っている→ひと学年にひとクラスだけの小学校も増えており、担い手不足に拍車がかかる。共働き世帯や核家族世帯が増え、PTAまでやる余裕がない→必要以上に役員が多い、クラス委員が多いなどPTAの負担が大きいという印象（その他、PTAの印象が悪い）→PTAの負担減に加え、年に1回くらいは子どものためのイベント開催、加えて保護者にも参加や観覧してもらい、活動を知ってもらう必要がある。

○指導員のなり手がいない。高齢化になり活動に支障をきたす時もあります。

○青少年指導員を各町で数人ずつ選出いただくがなり手がなかなか決まらない。メンバーも仕事があり、会議など集まり難しくLINEでのやり取りが多く、重要案件など一方通行遠感じる。

○校区単位での活動です。校区内の人口格差、浜手、山手などの差により、活動にムラがあります。そのムラが活動の温度差になっています。

○青少年指導員のなり手が少ないため一人一人の在中期間が長い。

○会員の高齢化

○高齢化による会員数の減少。役員のなり手がいないためにクラブの解散となる傾向にある。他校区や市老連の活動、行事に参加する際の移動手段に困難を生じる。（運転免許証の返納等）。

◆課題に対して今後必要な活動・取組や、行政などからの支援についてお書きください。

○役員の持ち回り年数を5年や6年にする。

やる気のない単位Pと会長が話す機会をつくる。市P役員に参加する意義を確認、発信。
市Pに役員を出さないということは、考え方によっては市Pから脱会するということに等しいが、そのデメリットを整理し各単位Pと共有する。

7月に1回、2月に1回とし、市Pと単位Pの意見交換、単位P同士の意見交換を増やす。
活動テーマを市P役員で早めに話し合う。市P研修会の冒頭で、テーマに沿った講演を依頼するなど、市Pからの発信を増やす。会場をグランドホールにするなど、懇親会にスムーズに移れるようにする。

コロナ禍で減ったイベントを復活させるなど、PTAの活動を。実施した活動を効果的に広報する方法を考える＋共有する。(例)保護者にも参加してもらう。学校や教育委員会のHP、SNSで発信など。

○活動、取組については現状でいいと思います。

○活動や取組みなど、もっと団体内で話す場を増やしたいが、個々の都合が合わず、どういった支援があるかもわからない。

○生涯学習課より事務局員を出していただき、感謝しております。数年前からはじまった市からの補助金減額により活動を、縮小せざるを得ないため、現在「要望書」を提出し協議しています。

○青少年指導員の活動で市から与えられている権限が明確でない。補助金が減らされている為活動が制限される。

○子育て世代にアピールする取組みを計画する。教育機関との連携を希望します。

○若手会員を増やすための勧誘や活動を会報誌や回覧でPRする。→現状は厳しい。町会にも協力してもらう。(会員の勧誘等)

◆どういう条件が整えば、今後地域活動の担い手が増えていくと思われますか。

○参加者の公平性を求めすぎているように感じる。核家族世帯や共働き世帯が増えている中、全員に公平に参加させるのはもはや難しい、時代に合っていないと思う。(持論だがPTAであれば)保護者が100人いれば90人以上はそもそもPTA役員に興味がなかったり参加する気がないように感じる。その90%にいくら頑張っても時間のムダだし、結果も出るはずがない。残りの潜在的にやる気がある、子どもたちのためになにか力になればという気持ちを持つ10%の保護者に働きかけるのが効果的であり、結果につながる。潜在している10%の保護者に興味を持ってもらうために、「PTAって(子どもたちのために)こんなことやってる」ということを発信し、保護者にも体感してもらうことで「PTA役員になれば子どもたちのために何かできる」と感じてもらう必要がある。一方で、一部の人ばかりがボランティアで地域貢献する(場合によってはさせられる)のでは、持続性がない。そのため、地域貢献する人に対して、何かメリットがあるべきと感じる(決して金銭的なメリットということではない)。行政の観点からも、地域貢献しようという気持ちを持つ人に、ぜひメリットがあるような地域づくりを考えてほしい。地域貢献しようという気持ちを持つひとの背中を押してあげる仕組みづくりが必要だと感じます。また、そのような仕組みやメリットを、しっかり発信してほしいと思います。(自分の中でもアイデアがまとまっているわけではないので、このような仕組みについて議論する機会があれば、ぜひ積極的に参加したいです)

○それがわかりません。

○地域の方々が青少年指導員の活動が最も必要であると認識を高めていただけないと担い手が増えないと思いますが、具体的な条件は、現状わかりません。

○心のゆとりがある人が減っています。子どもの頃より、あったかい環境づくりが重要と考えます。青少年指導員は継続にこそ意義あると思います。長期スパンで育成中です。

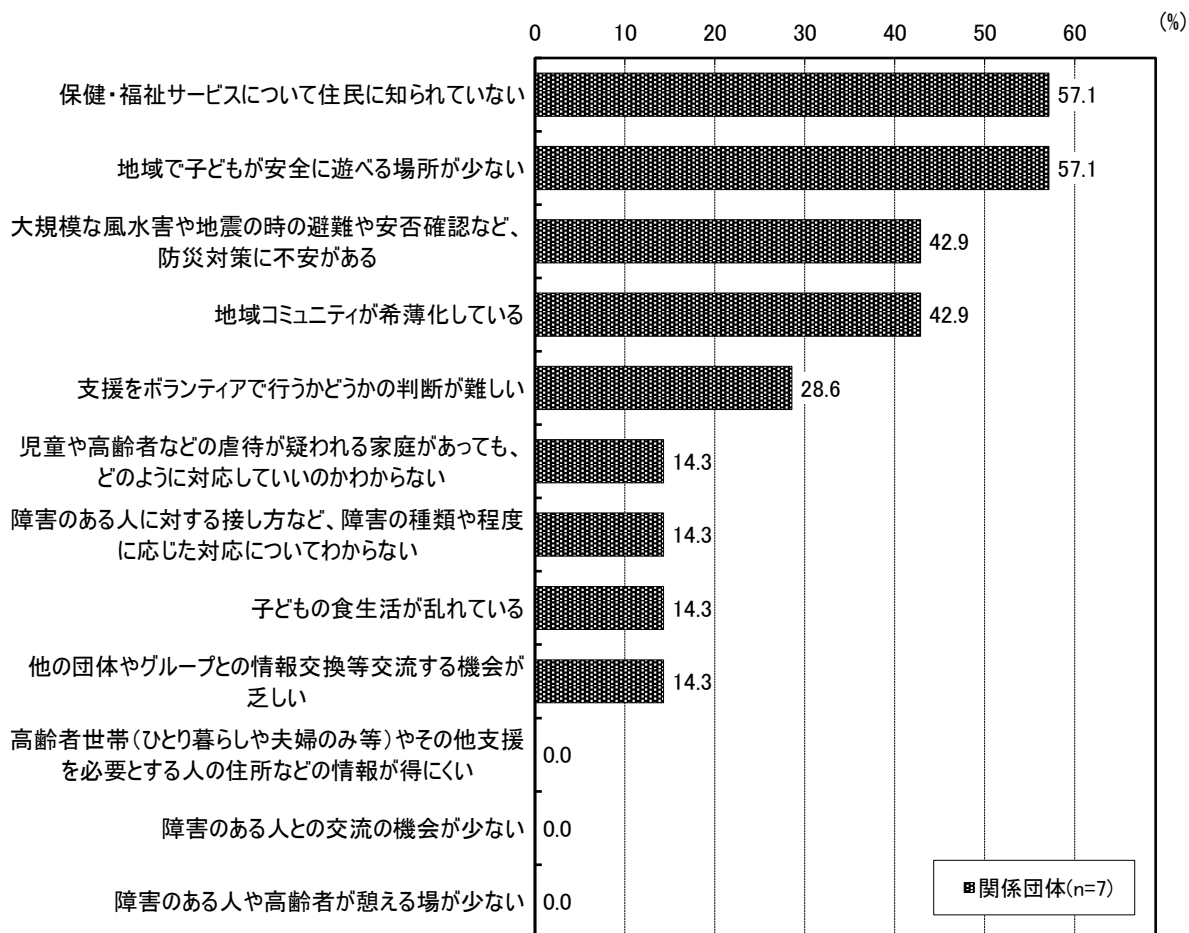
○お気楽感と青少年指導員の活動を明確にすること。

○情報、みんなが集まれる固定の場所、潤沢な資金。

○できれば遠い地域に出向いていなくてもいいようにする。(単位クラブ内では活動しやすい)書類等の事務処理を簡潔にする。女性リーダーを増やしていく。

○地域全体のことについてお伺いします。

◆岸和田のまちに暮らして感じる地域の主な問題・課題について（3つ選んでください）



○「保健・福祉サービスについて住民に知られていない」と「地域で子どもが安全に遊べる場所が少ない」が 57.1%、「大規模な風水害や地震の時の避難や安否確認など、防災対策に不安がある」と「地域コミュニティが希薄化している」が 42.9%、「支援をボランティアで行うかどうかの判断が難しい」が 28.6%の順となっています。

※その他の記述内容

- ・ 高齢者に対する行政からの支援や補助が手薄い...との意見をよく耳にする。

◆活用できそうな地域の資源についてお書きください。

- 府営住宅のスペース
民間の「子どもの遊びスペース」の活用（こどものいる世帯に利用券配付など）
図書館の活用（泉大津市立総合図書館など参考）
公園の整備、こどもが集まるイベントの開催
- 公民館や町会館
- 資源ないので、企業誘致必要かと
- 古紙回収・アルミ回収
市所有の空地利用
- 城、だんじり祭

◆今後特に必要だと思われる福祉施策やサービスについてお書きください。

- 子どもの学童サービスの充実（小学校終了後、学童施設への送迎など）
習い事などの活動場所の充実（新体操など、スペースが必要な活動の場所が不足しており、体育館の取り合いになっていないか。活動場所がないと、安定した習い事の充実につながらない）
- 高齢者や青少年たちへの支援や犯罪や事故に巻き込まれないようコミュニティの場や時間を増やす。
- 大人、小人と住民等の親密につきあえる場所
- 多言語対応
- 山手地区にもローズバス等を導入してほしい。（会員の声）遠出が難しいので身近な場所で活動できる場所づくりに協力してほしい。

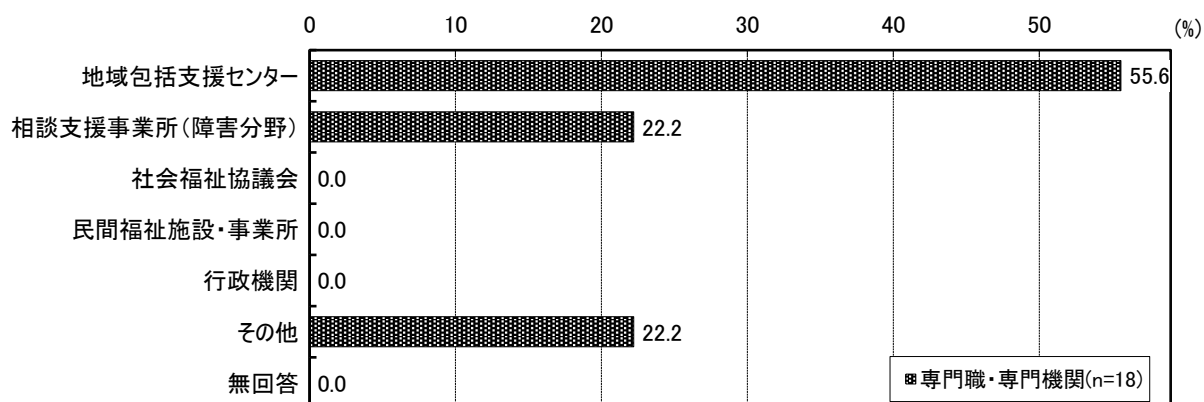
◆子どもから高齢者までみんなが暮らしやすいまちづくりのために必要な要素についてお書きください。

- 子どもに対する子育ても、高齢者に対する介護も、今後主に担うのは「現役世代」です。
そのため、現役世代が安定、安心して生活できることが、「子どもから高齢者までみんなが暮らしやすいまちづくり」につながると思います。例えば、小学校の保護者が安心して働くために、学童の送迎を充実、行政が代行するなどひとつですし、共働きのため子どもの習い事に制限がある世帯があることから、子どもの習い事の送り迎えを行政が代行するなど、またそのために学童機能を持った（メガ）送迎拠点をつくるなども、現役世代の暮らしやすいまちにつながると思います。
- 高齢化社会が進む中、できるだけ少子化を防ぎ、公民館や会館を利用し、ボランティア団体からの支援があれば良い。
- 地域見守り、挨拶の重要性再認識
- 誰もが集える場所づくり
- やさしい日本語を使う

④専門職・専門機関に対するアンケート調査

※令和8(2026)年2月～3月に実施。18機関から回答。

◆あなたの所属を教えてください。

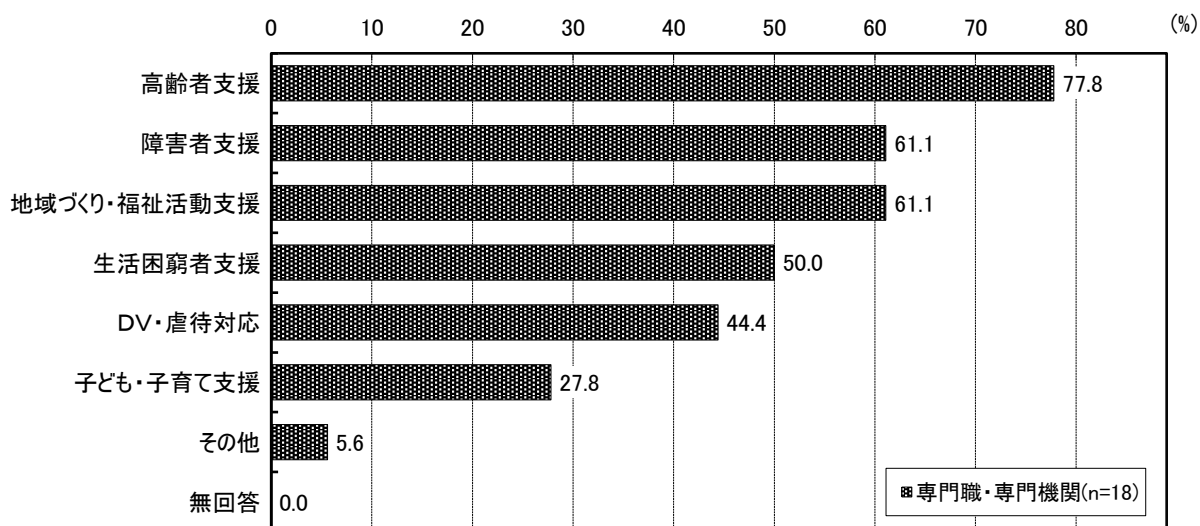


○「地域包括支援センター」が55.6%、「相談支援事業所（障害分野）」が22.2%、「その他」が22.2%となっています。

※その他の記述内容

- ・ C S W
- ・ 地域活動支援センター
- ・ いきいきネット相談支援センター

◆担当している主な支援分野を教えてください。（複数回答）



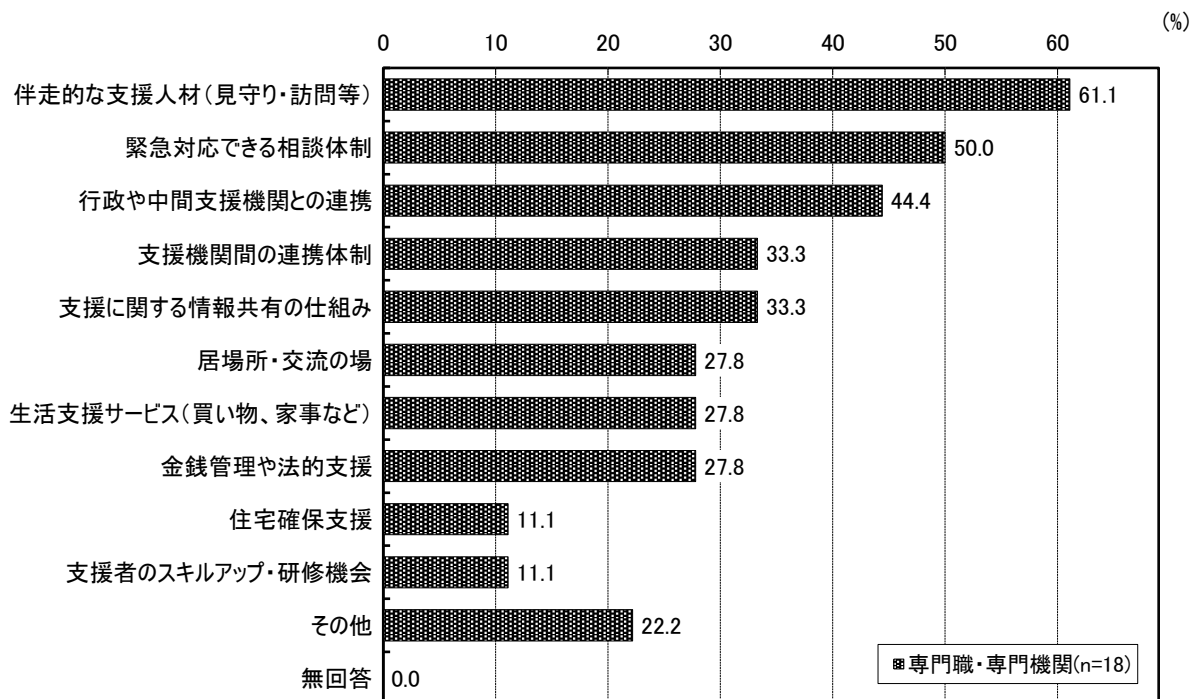
○「高齢者支援」が77.8%と最も多く、次いで「障害者支援」と「地域づくり・福祉活動支援」が61.1%、「生活困窮者支援」が50.0%、「DV・虐待対応」が44.4%、「子ども・子育て支援」が27.8%の順となっています。

※その他の記述内容

- ・ 健康体操

○地域課題についてお伺いします。

◆課題解決に向けて、どのような支援が不足していると感じますか。(複数回答)

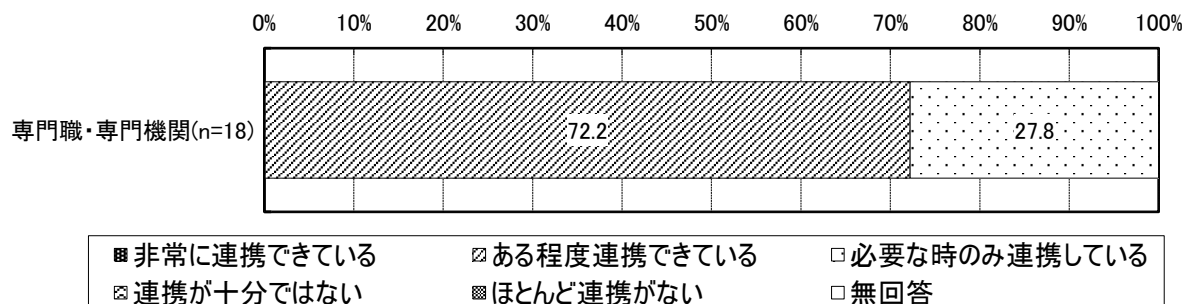


○「伴走的な支援人材(見守り・訪問等)」が61.1%と最も多く、次いで「緊急対応できる相談体制」が50.0%、「行政や中間支援機関との連携」が44.4%、「支援機関間の連携体制」と「支援に関する情報共有の仕組み」が33.3%となっています。

※その他の記述内容

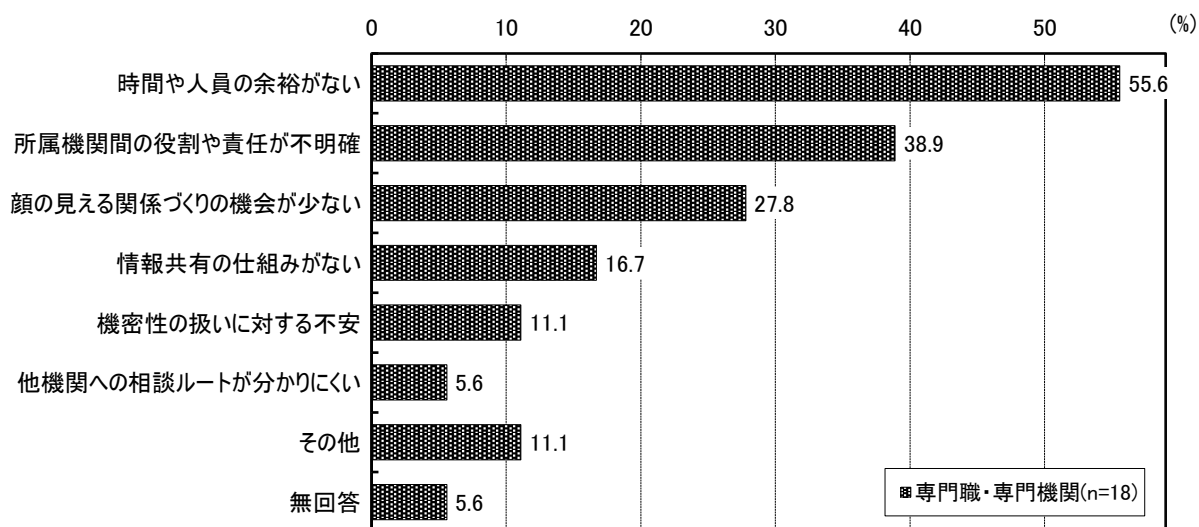
- ・高齢者の日常ゴミ出し問題
- ・介護タクシー等交通手段
- ・生活困窮支援
- ・高齢による免許返納等で移動手段を失くしたことによる困りごとが増えてくると思います。買い物は補う手段がたくさんありますが、通院や役所の手続き関連が困ると思います。

◆支援者同士の連携状況について、どのように感じますか。



○「ある程度連携できている」が72.2%、「必要な時のみ連携している」が27.8%となっています。

◆連携が進みにくいと感じる理由を教えてください。（複数回答）

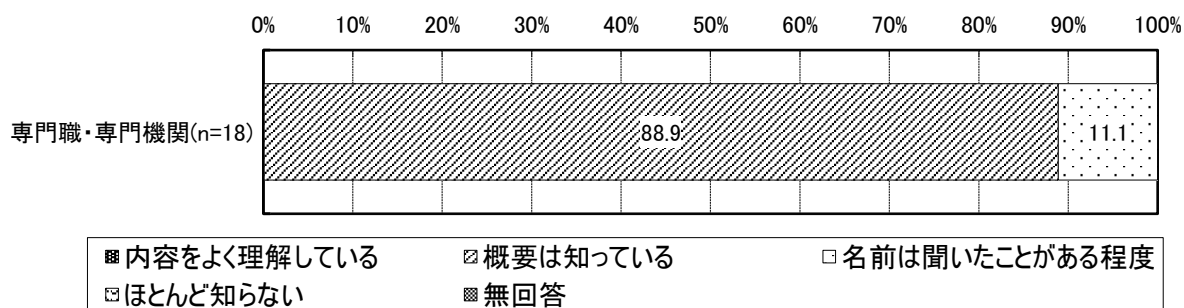


○「時間や人員の余裕がない」が 55.6%と最も多く、次いで「所属機関間の役割や責任が不明確」が 38.9%、「顔の見える関係づくりの機会が少ない」が 27.8%となっています。

※その他の記述内容

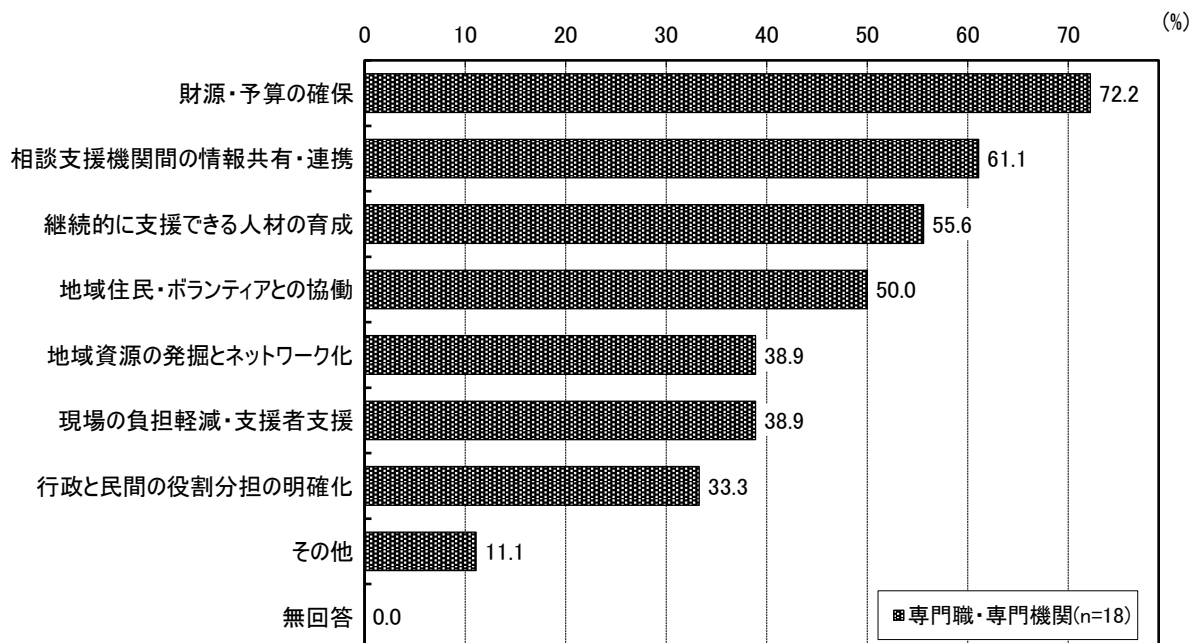
- ・自治体の縦割り行政
- ・特に進みにくいとは感じませんが、連携したくないと思う機関はあります。ある程度、持ちつ持たれつみたいな関係が必要だと思いますが、相手の役割や責任を理解せず、自分の立場だけを守って話をする機関とはそもそも連携を進めたいとも思いません。

◆地域包括的な支援体制（重層的支援体制整備事業など）について、どの程度理解していますか。



○「概要は知っている」が 88.9%、「名前は聞いたことがある程度」が 11.1%となっています。

◆地域で「包括的な支援体制」を進めるうえで特に重要だと思う要素を教えてください。（複数回答）

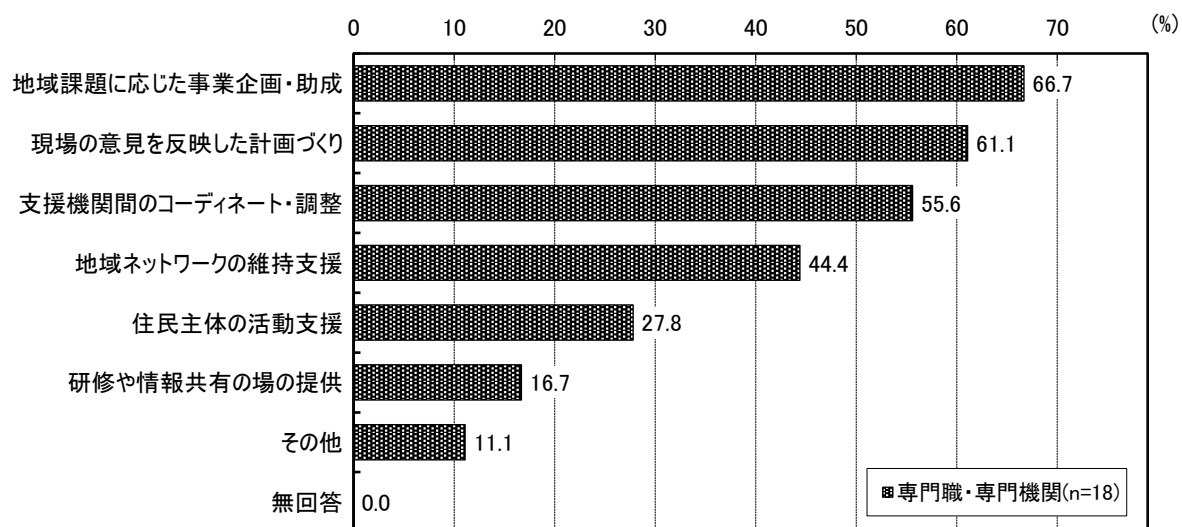


○「財源・予算の確保」が 72.2%と最も多く、次いで「相談支援機関間の情報共有・連携」が 61.1%、「継続的に支援できる人材の育成」が 55.6%、「地域住民・ボランティアとの協働」が 50.0%、「地域資源の発掘とネットワーク化」と「現場の負担軽減・支援者支援」が 38.95, 「行政と民間の役割分担の明確化」が 33.3%となっています。

※その他の記述内容

- ・現時点での課題の調査。また、包括的支援のまとめ（リーダー）役をする機関（担当者）の人柄や技量、知識量が求められると思います。
- ・自治体の職員は定期的に移動するため、業務の引継ぎが表面的なものにとどまり、自らの責任や役割、取り組みの目的や本質を理解できなくなりがち。

◆地域福祉活動を推進するために、行政や社協に期待することは何ですか。（複数回答）



○「地域課題に応じた事業企画・助成」が 66.7%と最も多く、次いで「現場の意見を反映した計画づくり」が 61.1%、「支援機関間のコーディネート・調整」が 55.6%、「地域ネットワークの維持支援」が 44.4%、「住民主体の活動支援」が 27.8%などとなっています。

※その他の記述内容

- ・ 市民と行政の協働
- ・ 福祉は本質的に行政の役割ですが、形骸化してしまいました。自治体がしなくてはいけないができないことを民間にお願いしていることを忘れ、仕事を与えてやっているという姿勢になってしまったことが残念です。

◆地域福祉計画や活動推進計画に対して、現場の声として伝えたいことがあればご記入ください。

- ・地域では複合的な課題を抱え制度の狭間にあるケースがあります。分野横断的な連携の重要性を感じています。一方で相談内容の複雑化に対し人員や時間の確保が難しく、継続支援に課題があります。また、地域のつながりの希薄化により孤立ケースの発見が遅れることもあり、予防的な取り組みやわかりやすい制度周知、現場の声を反映した実効性のある支援体制づくりを期待しています。
- ・地域活動に期待するのであれば、成功事例等を提示して、システムづくりの後方支援（人的・資金）をお願いしたい。金も出ない、口も出さないでは、誰も動きません。
- ・地域に必要な福祉活動を継続的に展開し続けるには、行政側の理解あるサポート（予算、地域福祉や制度を理解した人員）が必要。現場や地域の声をどのように反映し優先順位にあげるか、誰が聞いても理解できるような発信が、より多くの方に賛同を得やすいのではないかと思います。
- ・まだまだ行政が行政がという声があり、行政に対して過度な期待をもつ住民が少なくないのが現状です。その辺りの理解を促すような活動も必要なのかもしれません。
- ・行政にもお金がない、地域住民も仕事しているか支援が必要な高齢者か、自助・互助・共助に向かう道も困難な様子。目の前のできることするしかないですから。
- ・定年退職した方や、介護保険の認定がおりない方たちの張り合いができる場所づくり。
- ・高齢者の方や担当ケアマネから、日常のゴミ出しの相談がありますが、介護サービス利用しても無理な場合もあります。早朝に出さないといけない地区など。他市で行っているふれあい収集を粗大ゴミだけではなく日常ゴミにも導入してもらえると、本当に困っている方に利用してもらえるし、困っている方に対しては近所の方や民生委員さんが動いてくれているけれど、かなりの負担です。家族の協力が得られない人は、かなり困ります。
- ・他の市を参考にするのは良いことだと思うが、岸和田市として、何ができるかが大切であって、できるできないは別にして、腹を割って話す機会をもっと持つべきだと思う。頭で考えていることと、実際は違うので、たとえすぐに実現不可能であっても、お金がなくてもできることはあると思う。
- ・すべての民間委託を廃止し、すべてを自治体で行うという前提で一度計画を立ててみる必要があります。
- ・現場の負担軽減が必要です。